2024年度　海洋教育実践記録集

与論町教育委員会

与論町における海洋教育について

はじめに

与論町は「島だちの教育」を理念として掲げ，「島発ち」「島建ち」「島立ち」の３点を抱合するものとして大切にしています。その理念は，島を出発するまでに島を知り，基礎的な知識・技能を身に付けること，島を建設・創造するための課題発見力や問題解決力を育み，どこの地でも自立できるための学びに向かう力・人間性を身に付けることを目指すものです。加えて，令和の日本型学校教育においては，「個別最適な学び・協働的な学び」のキーワードに示されるように，ICT を活用した個々人の学びの促進と多様な人々と協働の充実が求められます。そのような，時代に即したこれからの学びのためにも，この海洋教育が与論町における探究的な学びの核となることを願っています。

～令和３年度海洋教育副読本より抜粋：「はじめに」与論町教育委員会教育長　町岡　光弘～

与論町の海洋教育について

・　目標

海と人との共生に係る見方・考え方を働かせ，与論島の海とくらしの課題について探究することを通して，「島だちの力」を身に付ける。

・　内容

町内の全ての小・中・高等学校と地域住民が連携・協働しながら「与論島の海とくらしの課題についての探究活動」を展開することにより，与論島の子供たちに，自分の夢や目標に向かって力強く歩んでいくための「自己開示の力・自己表現の技術・レジリエンス・豊かな職業観や勤労観・探究的に学ぶ姿勢」等(＝「島だちの力」)を身に付けさせる。

小・中学校においては、令和４年度から教育課程特例校として総合的な学習の時間等の時数の一部を削減し，減じた時数を海洋教育科「ゆんぬ学」に割り当てる。小・中学校の児童生徒は、総合的な学習の時間で身に付けた「自ら課題を見付け，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し，よりよく問題を解決する資質や能力」や「学び方やものの考え方」を、海とともにある与論島の実社会で生かすことにより，それらの資質や能力等を海と人との共生や島だちに必要な力として強化していく。そして，それらの学びを高校で行われている総合的な探究の時間「ゆんぬ」につなぐことにより，すべての学校段階で海洋教育を具体的に推進していく。

与論町海洋教育グランドデザイン

誠の教育

「島だち」後の社会を生きていく力の育成

与論島の
活性化・持続可能化

学びに向かう力・人間性等
【島立ち】
与論島の人々との関わりの中で自己肯定感・自己有用感を高めるとともに，ねばり強くしなやかに探究する心を育む。

知識・技能
【島発ち】
与論島の強みや問題点について理解し，それらをつなぐことで与論島の概念を形成している。

思考力・判断力・表現力等
【島建ち】
与論島の強みや問題点から自分なりの問いを見いだし，仮説を立て，自分にできることを実践する。

島だちの力

地域と連携した協働的な探究学習

【与論町の海洋教育の目標】
海と人との共生に係る見方・考え方を働かせ，与論島の海とくらしの課題について探究することを通して，「島だちの力」を身に付ける。

		海と人との共生に係る見方・考え方			
高校生	総合的な探究の時間「ゆんぬ」での学び				
中学生	海洋教育科「ゆんぬ学」での学び	**海と人に親しむ** 与論の海や与論に生きる人々の魅力を，豊かな感受性をもって捉える。	**海と人をつなげる** 海に囲まれた与論の自然や文化と，そこに生きる人々とのくらしを関連付ける。	**海と人を守る** 与論の海の環境保全や，離島である与論のくらしの持続について考える。	**海と人を生かす** 与論の海や与論に生きる人々を，よりよい未来を創造するための資源としてとらえる。
小学生					

与論町の海洋教育において目指す学びの姿

＜小学校卒業時までに＞ 与論に生きる人々との関わりの中で与論島の強みや問題点について理解し，学んだことや行動したことを自分なりの言葉で発信することができる。
＜中学校卒業時までに＞ 探究のプロセスを活用しながら与論島の強みや問題点に迫り，与論に生きる人々との 関わりの中で，自らの生き方や進路について考えることができる。
＜高校卒業時までに＞ 与論島に関する広範な知識をもとに探究を深め，社会的評価を受けることにより，自己肯定感・自己有用感を高めるとともに，ねばり強くしなやかに探究する心を身に付ける。
＜高校卒業後～＞ これまでに身に付けた「島だちの力」を生かし，それぞれの社会を生き抜くことができる。

与論町海洋教育実施スケジュール

令和６年度海洋教育年間実施スケジュール

期日	事業名	日時	場所	備考
4 月	キックオフ研修会	4 月 11 日（木）	多目的ホール	教職員対象
5 月	令和 6 年度海洋教育推進協議会総会	5 月 1 日（水）	庁議室	
6 月	第 1 回地域サポーター会	6 月 4 日（火）	多目的ホール	
	第 2 回海洋教育魅力化シンポジウム	6 月 19 日（水）	公民館	
7 月	教職員等「ゆんぬ学」研修①マリン	7 月 25 日（木）	BG 艇庫	※台風のため中止
	東京大学夏季サイエンスキャンプ成果発表会	7 月 31 日（水）	多目的ホール	東京大学大気海洋研究所・与論高等学校・与論町海洋教育推進協議会合同企画
8 月	シュノーケリング体験	8 月 2 日（金）	BG 艇庫	小学生対象
	海洋教育研修（やんばる）	8 月 4～7 日	国頭・本部	教職員対象
	教職員等「ゆんぬ学」研修②三線	8 月 23 日（金）	公民館	教職員対象
9 月	海洋教育部会	9 月 10 日（火）	オンライン	
11 月	海洋教育定例会	11 月 13 日（水）	多目的ホール	
	奄美黒潮シンポジウム	11 月 16 日（土）	奄美大島	与論高校サイエンスキャンプ
	海洋教育部会	11 月 28 日（水）	多目的ホール	
	「ゆんぬ学」研修会	11 月 28 日（水）	多目的ホール	部会終了後開催
1 月	第５回高校生探求コンテスト	1 月 17 日（金）	鹿児島市	与論高校生参加
	ヨロン海洋教育フェア	1 月 28 日（火）	砂美地来館	
2 月	全国海の学び発表交流会	2 月 14 日（金）	オンライン	
3 月	大島高校主催高校生サミット in 奄美	3 月 19 日（水）	奄美大島高校	与論高校生参加
	第 2 回地域サポーター会	3 月 20 日（木）	まなび島	

各校での海洋教育の位置付け

与論小学校
茶花小学校
那間小学校
与論中学校
与論高等学校

海洋教育科「ゆんぬ学」及び総合的な学習の時間　全体計画

与論小学校

諸教育関係法規等
学習指導要領
県・地区・町の教育施策

学校教育目標

校訓「至誠」を胸に、未来に挑む子供の育成

児童の実態
地域の実態
教師・保護者の願い
時代や社会の要請

目指す子供の姿

＜進んで学ぶ＞　課題をもち意欲的に学習する子供
＜深く考える＞　よく考え、誠の心で行動する子供
＜やりぬく＞　目標をもち、がんばる子供

海洋教育学科「ゆんぬ学」及び総合的な学習の時間の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、地域の「人」「もの」「こと」に関わる横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくことができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。

(1) 地域の「人」「もの」「こと」に関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域の特徴やよさに気付き、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。

(2) 地域の「人」「もの」「こと」の中から問いを見いだし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。

(3) 地域の「人」「もの」「こと」についての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。

探究課題の解決を通じて育成を目指す具体的な資質・能力

		中学年	高学年
知識及び技能	知識	ア　地域には何があるかを知り、その特徴や魅力を理解する。 イ　地域の人々には思いや願いがあり、連携・協力することでそれを実現しようとしていることを理解する。	ア　地域の自然・文化・産業等は、相互に関わりを持ちながらその価値を形成していることを理解する。 イ　地域の自然、文化、産業等には課題があり、その克服のために多様な人々が関わりながら活動していることを理解する。
	技能	ア　情報を比較・分類するなど、探求の過程に応じた技能を身に付ける。	ア　情報を比較・分類・関連付けるなど、探求の過程に応じた技　能を身に付ける。
	(1) コミュニケーションスキル	ア　理由や事例を挙げながら、筋道立てて話す。 イ　進行に沿って話し合う。 ウ　話の中心に気を付けて聞く。 エ　質問したり、感想を述べる。	ア　考えたことや伝えたいことを的確に話す。 イ　適切な言葉遣いで話す。 ウ　相手の意図をつかみながら聞く。 エ　立場や意図を明確にして計画的に話し合う。
	(2) 思考スキル	多面的に見る・多角的に見る、理由付ける、見通す、具体化する、抽象化する、構造化する	
	(3) 活用スキル	ア　使うよさを実感する。	ア　効果的に活用する。
	(4) 表現スキル	ア　相手や目的に応じた、多様な方法で表現する。 イ　組み立てを考え、中心をはっきりさせて発表する。	ア　相手や目的に応じて、効果的な方法を選択して表現する。 イ　資料等を効果的に使い、意図を明確にして発表する。 ウ　話の構成を工夫する。
思考力、判断力、表現力等	課題設定	ア　生活や学習の中の疑問や驚きから問題に気付いたり見付けたりする。 イ　追究の仕方を身に付ける。 ウ　簡単な追究計画を立てる。	ア　自分たちを取り巻く社会に目を向け、経験や既習事項と関連させて考え、課題をつくる。 イ　追究の仕方を工夫したりつくり出したりする。 ウ　見通しを持って、目的や内容に応じた追究計画を立て、修正する。
	情報収集	ア自分たちの身近なところから資料や情報を集める イ　聞き取りやアンケートで情報を集める。 ウ　パンフレットやインターネットなどから情報を集める。	ア　視覚・聴覚以外の感覚を使うなど、様々な方法を使って多様な情報を集める。 イ　必要な情報を選んで、メモや写真などの情報を記録に残す。
	整理・分析	ア　同じ仲間の情報をまとめる。 イ　視点を決めて比較する。 ウ　数量などで客観的に比較する。	ア　視点を明確にして他の情報と比較したり体験したことと資料を効果的に関連付けたりして考える。 イ　目的に応じて、必要な情報を比較する、分類する、関連付ける、多面的に見るなどして考える。
	まとめ・表現	ア　観察や聞き取りなどで調べたことを自分なりにまとめたり表　やグラフを使って整理して表す。	ア　活動の過程や結果、成果など学んだことを使って、工夫しながら分かりやすく整理して表す。
		絵、図や表・グラフ、絵地図、写真、動画、文章、イラスト、ホスター、新聞、レホーと、HP、ポスターセッションなど	

	振り返り	ア　友達とともに観点を明確にして活動を振り返り次の活動に活かす。 イ　自分のよさやできることに気付く。	ア　次の活動を意識して、成果や課題をもとに視点を明確にして学習の仕方や活動を振り返り、次の学習に活かす。 イ　自分の興味･関心の所在や自分らしさに気付く。
学びに向かう力、人間力等	関心・意欲	ア　「？」を意識して、問題意識を持って意欲的に活動する。 イ　自分なりの方法を考え、工夫しながら意欲的に活動する。	ア　自分の興味･関心の所在や自分らしさに気付く。
	生活に活かす	ア　活動内容のよさを生活に活かすために、自分なりに広げたり、　決めたりしようとする。	ア　課題意識を持って、自分なりの方法を工夫しながら、他者や地域社会とともに、学んだことを実践していこうとする。
	他者理解尊重	ア　他者のよさを学ぶ。 イ　相手の立場を考え思いやる。	ア　違いやよさを認める。 イ　相互評価をする。
	協働	ア　力を合わせて活動に挑戦する。 イ　協働する楽しさを味わい、よさに気付く。	ア　力を合わせて活動し、成し遂げる。 イ　協働する大切さに気づき、喜びを感じる。
	対象との関わり	ア　対象(社会)に興味・関心を持ち、その面白さに気付く。	ア　対象との関わりを深め、行動する。 イ　探求活動の経験を活かし、進んで地域の活動に参加しようとする。

【学習活動】
- 地域の実態、児童の実態を踏まえ、探究課題を設定する。
- 地域の人、もの、ことを生かした学習活動を行う。
- 学習成果を表現する場を設定する。

【指導方法】
- 児童の課題意識を連続、発展させる支援と工夫を行う。
- 個に応じた指導の工夫を行う。
- 体験活動を重視する。
- 各教科等との関連を重視した指導を行う。
- 言語により整理分析したり、まとめ表現したりする学習を重視する。
- 協働的な学習を充実させるため、思考ツールを積極的に活用する。

【学習評価】
- ポートフォリオを活用した評価の充実を図る。
- 観点別学習状況を把握するための評価規準を設定する。
- 個人内評価を重視する。
- 期末、学年末には指導計画を評価・改善し、次年度の計画に生かす。

各教科等との関連

国　語	社　会	算　数	理　科	生　活	音　楽
・自分の思いや考えが相手に伝わるように表現する力 ・相手が伝えたい事柄を正確に理解する力 ・言語についての知識や理解、技能　など	・社会的な事象に関心を持ち、進んで調べようとする態度 ・統計、資料、年表用を読み取り活用する力 ・観察や調査した事柄を関連付ける力　など	・数量や図形に興味を持ち、調べたり試したりしながら課題を解決していこうとする力 ・目的に応じて表やグラフを使って表現する力 ・筋道を立てて考える力　など	・自然事象に関心を持ち、進んで調べようとする態度 ・科学的に筋道立てて考え、問題を解決する力 ・見通しを持って観察、実験をする力　など	・身近な人々、社会、自然と関わる力 ・自分自身や自分の生活について新たな気付きをする力 ・生活上必要な習慣や技能　など	・音楽によって養われる感性や情操 ・感じたことを歌や楽器で表現する力　など
図画工作	**家　庭**	**体　育**	**外国語活動外国語**	**特別の教科 道徳**	**特別活動**
・表現や鑑賞の活動や等で養われた感性や情操 ・つくりだす喜び ・形や色、材料等から発想する力 ・材料や用具を用いる力　など	・日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能・家庭生活をよりよくしようと工夫する力と実践的な態度　など	・健康で安全な生活を営む実践力 ・たくましい心身　など	・異なる言語や文化を理解する力 ・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度　など	・課題解決に向けて主体的に活動するための道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度　など	・話合いの仕方 ・集団をよりよくしていこうとする意欲及び態度 ・自発的、自主的に活動を進める力　など

地　域　と　の　関　連

海洋教育推進協議会　与論民俗村　サザンクロスセンター　与論の十五夜踊り保存会
与論町役場　与論町漁協　地域の行事　与論の海　高齢者クラブ　サトウキビ　など

ゆんぬ学（海洋教育）年間指導計画　茶花小学校

学年／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3年 伝統文化 国際理解	**☆身近にある自然環境と文化** 「ユンヌたんけんたい」 **（★海洋教育 25 時間）** ○ユンヌのいいとろはどこ？ ○昆虫探しや海岸の生き物探しをしよう。 ○ユンヌの施設・観光地探検をしよう。（一日遠足） ○ユンヌのひみつを紹介しよう。 ○町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織に学ぶ。 「教えて，ウプ・パーパー」（25 時間） ○与論の昔のこと ○ウプ・パーパーと昔の遊びを通して交流しよう。 ○与論の文化・伝統を調べよう。 ○発表会を開こう。											
4年 環境 町づくり ものづくり	**☆身近な自然環境と島の人々，姉妹校による他地域とのつながり**　**（★海洋教育 50 時間）** 「海からのおくりもの」　45 時間 ○　与論の海に親しもう。 ○　海の生き物を調べよう。 ○　海の中はどうなっているのかな。（グラスボート） ○　海岸の漂着物で何かできないかな。 ○ ミコノス島と与論島 ○ 鹿児島県と深い関係のある国々や地域について調べよう。 ＊海に親しむ活動を通して，海辺の自然環境に目を向けたり，地域素材を使ったものづくりの面白さを楽しんだりして，身近な自然環境について学ぶ。 ＊えひめＡ１散布（２月：１時間） 6月　コース見極め（1 時間）・検定（1 時間）・遠泳大会（3 時間）　5 時間（体育時数）											
5年 環境 食 伝統文化	**☆身近な自然環境とそこに起きている環境問題**　**（★海洋教育 62 時間）** 「ユンヌの海とわたしたち」　56 時間 ○　与論の海の今を知ろう。（海と人，産業の関わりを通して）～課題設定～ ○　与論の海を守ろう～情報の収集～ ○　与論の海を守ろう～体験活動を通して～実態調査を通して～ （キビを植え，黒糖作り体験１０時間，体験活動 10 時間，サンゴ増殖体験３時間） ○　学んだことを発信しよう 6月　コース見極め（1 時間）・検定（1 時間）・遠泳大会（3 時間） 7月　水泳記録会練習（1 時間）　6 時間（体育時数）											
6年 町づくり キャリア	**☆町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織**　**（★海洋教育 54 時間）** 「ヨロンのタカラ探し！！」　48 時間 ○　修学旅行で与論と沖縄の違いを見つけ，まとめる。（興味・関心） ○　与論のよさを考え，課題を決め，探究の計画を立てる。（課題の設定） ○　グループのテーマに沿って調べる。（情報の収集） ○　中間発表を行い，プレゼン大会（ヨロン海洋教育フェア）へ向けた計画を立てる。（整理・分析） ○　中間発表での課題をもとに，発表の準備をする。（課題の追求） ○　ヨロン海洋教育フェアで発表する。（まとめ・表現） 6月　コース見極め（1 時間）・検定（1 時間）・遠泳大会（3 時間） 7月　水泳記録会練習（1 時間）　6 時間（体育時数）											

令和6年度 海洋教育科（ゆんぬ学）全体計画

与論町立那間小学校

<与論町海洋教育の目標>
海と人との共生に係る見方・考え方を働かせ，与論島の海とくらしの課題について探究することを通して，「島だちの力」を身に付ける。

<学校の教育目標>
確かな学力と豊かな心をもち，心身ともにたくましい那間小の子供を育成する

<海洋教育の目標>
○ 与論の海と人に関心をもち，主体的に課題を解決できる子供を育てる。
○ 活動内容に応じた追究方法やまとめ方を工夫しながら，協働して学習を進め，自分の考えを豊かに表現し，自らの生活のあり方を考える子供を育てる。

<島だちの力>
（島立ち）与論島の人々との関わりの中で自己肯定感・自己有用感を高めるとともに，ねばり強くしなやかに探究する心を育む。
（島発ち）与論島の強みや問題点について理解し，それらをつなぐことで与論島の概念を形成している。
（島建ち）与論島の強みや問題点から自分なりの問いを見いだし，仮説を立て，自分にできることを実践する。

<他教科の関連>

① 各教科等の「見方・考え方」をつなぐ

② 学習内容でつなぐ

③ 指導方法でつなぐ

海洋教育を通して育みたい能力と態度	
情報収集・判断	与論島の海とくらしに関して適切な情報を収集し，総合的に判断する能力
対話	与論島の海とくらしの諸場面で円滑なコミュニケーションを行うために他者を理解し自己を表現する能力
問題解決	与論島の海とくらしの諸問題にかかわる関係者間の調整を試みながら問題を解決する能力
持続的利用	与論島の海の恵みや与論に生きる人々を持続的に活用できる能力
主体	与論島の海やくらしの諸問題に関して自ら責任ある行動を起こす積極的な態度
継続	未来を見据え変わりゆく社会に対応できるよう与論島の海やくらしに関する知識や技能を継続的に学習する態度
関係	海を介した時空間的なつながりを尊重する態度
感動	海や人に親しみ，大切にする態度

<地域との連携>
○各種教育施設や社会教育機関団体等との連携

○地域の教材や学習環境の積極的な活用

○与論町漁業協同組合・海の再生ネットワークよろん・ヨロンSC・誇れるふるさとネットワーク等との連携

教材の工夫

○地域の教育資源活用
・地域の人，物，事に進んで関わりをもつため町内の自然や人材，行事等の学習素材を調査し整備する。
・総合的な学習の時間や諸行事に協力支援できる人材を募り整理する。

○教材化の視点
・教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習が行われるように①②③のつながりを意識した教材にする。
・各教科で得た知識や技能を総合的に発揮できる教材にする。
・人や自然とのふれあいや道徳などで培った心情をさらに深めるような教材にする。

※ 与論町海洋教育推進協議会との連携を図る。

問題解決的な学習における学習過程

(1)「課題をつかむ」段階
・教科学習の発展として
・行事等への主体的な関わりから
・生活の中の気付きから
・様々な体験から

(2)「計画・追究する」段階
・どこで，どのような方法で調べるか。
・だれに，どのようにして伝えるか。

(3)「まとめ・表現する」段階
・分かったことや感想を自分の言葉でまとめる。
・まとめたことをもとに交流する。
・活動を振り返り，見直す。

※ 体験活動を適切に位置付ける。
※ 言語活動の充実を図る。

指導方法・指導体制の工夫

○教師の適切な指導
・児童の学習状況に応じた適切な指導

○学習形態の工夫
・学校の枠を超えた町単位での取組
・学年の枠を超えた異学年での取組
・課題別グループによる取組
・表現方法別グループによる取組

○指導体制の工夫
・ゲストティーチャーの活用
・T.T 指導の活用（担任外教職員との連携）

○学習環境の工夫
・活動内容により場の設定を工夫
・学校図書館の資料の整備・充実
・コンピュータソフトの整備・充実

○評価の工夫
・自己評価，相互評価

3年生 ユンヌのじまん（30時間） 他教科との関連

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	入学式・始業式 交通安全教室 集団下校	合同集団体験学習 修学旅行 プール開き	ユンヌフトゥバ学習 遠泳大会	校内水泳大会 終業式	始業式	運動会	ユンヌフトゥバ学習 那間っ子フェア 校内カルタ大会	終業式 校内人権週間 人権集会	始業式 校内持久走大会	ユンヌフトゥバ学習	卒業式・修了式
ゆんぬ学 海洋教育のコンセプトとの関連	○ゆんぬのいいところはどんなところ?② 【親・知】	○じまんをさがしに自然に出かけよう③ 【親・知】	○じまんをさがしに海に出かけよう⑦ 【親・知】		○じまんをさがしに島をめぐろう⑧ 【親・知】				○ユンヌのじまんを見つけて,『ユンヌじまん大会』をしよう⑩ 【親・知】		
他教科との関連		・市の様子（社） ・チョウを育てよう（理）	・全体と中心（国） ・引用するとき（国） ・まいごのかぎ（国） ・ふろしき（道）	・農家の仕事（社） ・表とグラフ（算） ・ごめんね,サルビアさん（道）		・科学読み物での調べ方（国） ・「おもてなし」ってなあに（道）					・しりょうの活用（算）

※ 海洋教育のコンセプト

○海に親しむ【親】 ・・・ 海の豊かな自然や身近な地域社会の中での様々な体験活動を通じて,海に対する豊かな感受性や海に対する関心等を培い,海の自然に親しみ,海に進んで関わろうとする児童・生徒を育成する。

○海を知る【知】 ・・・ 海の自然や資源,海をとりまく人や社会との深いかかわりについて関心をもち,進んで調べようとする児童・生徒を育てる。

○海を守る【守】 ・・・ 海について調べる活動やその保全活動などの体験を通じて,海の環境保全に主体的にかかわろうとする児童・生徒を育成する。

○海を利用する【利】・・・ 水産物や資源,船舶を用いた人や物の輸送,また,海を通じた世界の人々との結びつきについて理解し,それらを持続的に利用することの大切さを理解できる児童・生徒を育成する。

※ 島だちの力と非認知能力（海洋教育科（ゆんぬ学）全体計画参照）

○島立ち ・・・ 与論の人々との関わりの中で自己肯定感・自己有用感を高めるとともに,ねばり強くしなやかに探究する心を育む。【主体,継続,関係,感動】

○島発ち ・・・ 与論島の強みや問題点について理解し,それらをつなぐことで与論島の概念を形成している。【情報収集・判断,対話】

○島建ち ・・・ 与論島の強みや問題点から自分なりの問いを見いだし,仮説を立て,自分にできることを実践する。【問題解決,持続的利用】

4年生 ユンヌの海の魅力（31時間） 他教科との関連

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	入学式・始業式 交通安全教室 集団下校	合同集団体験学習 修学旅行 プール開き	ユンヌフトゥバ学習 遠泳大会	校内水泳大会 終業式	始業式	運動会	ユンヌフトゥバ学習 那間っ子フェア 校内カルタ大会	終業式 校内人権週間 人権集会	始業式 校内持久走大会	ユンヌフトゥバ学習	卒業式・修了式
ゆんぬ学 海洋教育のコンセプトとの関連	○海や生物の不思議について調べよう⑩ 【親・知】		○遠泳大会③ 【親】		○貝殻や漂着物を集めよう④ 【親・知】 ○マリンスポーツを楽しもう⑤【親・知】		○貝殻や漂着物を使って製作しよう④【親・知】		○調べたことを発表しよう。⑤【知・守】		
他教科との関連		・考えと例（国） ・水はどこから（社） ・小さな草たちには手を（道）	・要約するとき（国） ・ごみの処理と利用（社） ・雨水のゆくえと地面のようす（理）	・自然のなかの水のすがた（理）	・地震からくらしを守る（社） ・しりょうの整理（算）	・百科事典の使い方（国） ・聞かせて,君の声を（道）	・お父さんのじまん（道）	・プラタナスの木（国） ・浮世絵（道）	・ウナギの謎を追って（国）		・しりょうの活用（算）

※ 海洋教育のコンセプト

○海に親しむ【親】 ・・・ 海の豊かな自然や身近な地域社会の中での様々な体験活動を通じて,海に対する豊かな感受性や海に対する関心等を培い,海の自然に親しみ,海に進んで関わろうとする児童・生徒を育成する。

○海を知る【知】 ・・・ 海の自然や資源,海をとりまく人や社会との深いかかわりについて関心をもち,進んで調べようとする児童・生徒を育てる。

○海を守る【守】 ・・・ 海について調べる活動やその保全活動などの体験を通じて,海の環境保全に主体的にかかわろうとする児童・生徒を育成する。

○海を利用する【利】・・・ 水産物や資源,船舶を用いた人や物の輸送,また,海を通じた世界の人々との結びつきについて理解し,それらを持続的に利用することの大切さを理解できる児童・生徒を育成する。

※ 島だちの力と非認知能力（海洋教育科（ゆんぬ学）全体計画参照）

○島立ち ・・・ 与論の人々との関わりの中で自己肯定感・自己有用感を高めるとともに,ねばり強くしなやかに探究する心を育む。【主体,継続,関係,感動】

○島発ち ・・・ 与論島の強みや問題点について理解し,それらをつなぐことで与論島の概念を形成している。【情報収集・判断,対話】

○島建ち ・・・ 与論島の強みや問題点から自分なりの問いを見いだし,仮説を立て,自分にできることを実践する。【問題解決,持続的利用】

5年生 ユンヌの海と環境（43時間） 他教科との関連

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	入学式・始業式 交通安全教室 集団下校	合同集団体験学習 修学旅行 プール開き	ユンヌフトゥバ学習 遠泳大会	校内水泳大会 終業式	始業式	運動会	ユンヌフトゥバ学習 那間っ子フェア 校内カルタ大会	終業式 校内人権週間 人権集会	始業式 校内持久走大会	ユンヌフトゥバ学習	卒業式・修了式
ゆんぬ学 海洋教育のコンセプトとの関連	○与論の海の今を知ろう～課題設定～⑬【親・知】		○遠泳大会③【親】	○与論の海を守ろう～情報収集，整理・分析～⑬【知・守】					○学んだことを発信し，学びを振り返ろう。～まとめ・表現～⑭【守・利】		
他教科との関連	・世界の中の国土（社）	・原因と結果（国）	・目的に応じて引用するとき（国） ・ひとふみ十年（道） ・美しい夢－ゆめぴりか－（道）		・水産業のさかんな地域（社） ・和太鼓調べ（道）		・統計資料の読み方（国） ・グラフや表を用いて書こう（国） ・流れる水のはたらき（理）			・自然災害を防ぐ（社）	

※ 海洋教育のコンセプト

○海に親しむ【親】 ･･･ 海の豊かな自然や身近な地域社会の中での様々な体験活動を通じて，海に対する豊かな感受性や海に対する関心等を培い，海の自然に親しみ，海に進んで関わろうとする児童・生徒を育成する。

○海を知る【知】 ･･･ 海の自然や資源，海をとりまく人や社会との深いかかわりについて関心をもち，進んで調べようとする児童・生徒を育てる。

○海を守る【守】 ･･･ 海について調べる活動やその保全活動などの体験を通じて，海の環境保全に主体的にかかわろうとする児童・生徒を育成する。

○海を利用する【利】 ･･･ 水産物や資源，船舶を用いた人や物の輸送，また，海を通じた世界の人々との結びつきについて理解し，それらを持続的に利用することの大切さを理解できる児童・生徒を育成する。

※ 島だちの力と非認知能力（海洋教育科（ゆんぬ学）全体計画参照）

○島立ち ･･･ 与論の人々との関わりの中で自己肯定感・自己有用感を高めるとともに，ねばり強くしなやかに探究する心を育む。
【主体，継続，関係，感動】

○島発ち ･･･ 与論島の強みや問題点について理解し，それらをつなぐことで与論島の概念を形成している。
【情報収集・判断，対話】

○島建ち ･･･ 与論島の強みや問題点から自分なりの問いを見いだし，仮説を立て，自分にできることを実践する。
【問題解決，持続的利用】

6年生 ユンヌの「誇り」発信（40時間） 他教科との関連

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	入学式・始業式 交通安全教室 集団下校	合同集団体験学習 修学旅行 プール開き	ユンヌフトゥバ学習 遠泳大会	校内水泳大会 終業式	始業式	運動会	ユンヌフトゥバ学習 那間っ子フェア 校内カルタ大会	終業式 校内人権週間 人権集会	始業式 校内持久走大会	ユンヌフトゥバ学習	卒業式・修了式
ゆんぬ学 海洋教育のコンセプトとの関連	○修学旅行の計画を立てよう・与論と沖縄の違い⑤【親・知】	○遠泳大会③【親】	○「景観」について知ろう～課題設定～⑤【親・知】			○那間の景観を写真撮影しよう（実地調査）～情報収集，整理・分析～⑭【知・守】			○景観を残すためにできることを考えよう⑥～まとめ・表現～【守・利】		
他教科との関連		・主張と事例（国）	・情報と情報をつなげて伝えるとき（国） ・ぼくのお茶体験（道）	・生き物のくらしと環境（理） ・緑の戦士－ワンガリ・マータイ－（道）		・調べた情報の用い方（国） ・天下の名城をよみがえらせる－姫路城－（道）			・資料の整理（算） ・データの活用（算）	・地球に生きる（理）	・世界の未来と日本の役割（社）

※ 海洋教育のコンセプト

○海に親しむ【親】 ･･･ 海の豊かな自然や身近な地域社会の中での様々な体験活動を通じて，海に対する豊かな感受性や海に対する関心等を培い，海の自然に親しみ，海に進んで関わろうとする児童・生徒を育成する。

○海を知る【知】 ･･･ 海の自然や資源，海をとりまく人や社会との深いかかわりについて関心をもち，進んで調べようとする児童・生徒を育てる。

○海を守る【守】 ･･･ 海について調べる活動やその保全活動などの体験を通じて，海の環境保全に主体的にかかわろうとする児童・生徒を育成する。

○海を利用する【利】 ･･･ 水産物や資源，船舶を用いた人や物の輸送，また，海を通じた世界の人々との結びつきについて理解し，それらを持続的に利用することの大切さを理解できる児童・生徒を育成する。

※ 島だちの力と非認知能力（海洋教育科（ゆんぬ学）全体計画参照）

○島立ち ･･･ 与論の人々との関わりの中で自己肯定感・自己有用感を高めるとともに，ねばり強くしなやかに探究する心を育む。
【主体，継続，関係，感動】

○島発ち ･･･ 与論島の強みや問題点について理解し，それらをつなぐことで与論島の概念を形成している。
【情報収集・判断，対話】

○島建ち ･･･ 与論島の強みや問題点から自分なりの問いを見いだし，仮説を立て，自分にできることを実践する。
【問題解決，持続的利用】

海洋教育科「ゆんぬ学」（総合的な学習の時間を含む） 全体計画（令和7年度）

与論中学校

関係法規等
・日本国憲法
・教育基本法
・学校教育法
・学習指導要領

学校教育目標
未来の創り手となる生徒の夢実現に向けて，
確かな学力と豊かな心を育てる。

生徒の実態
優しく何事にも素直に取り組むが，主体的な姿勢や表現力，粘り強さに欠ける面がある。

家庭，地域の願い
学力の向上 ・ 心の教育
島に誇りをもち，島外でも，自立し打たれ強く生きるとともに，自分の意見や思いを表現できる人になってほしい

めざす学校像
1 生徒と職員が目標を持ち，生き生きと活動する学校
2 生徒が自覚をもって登校し，自信をもって下校する学校
3 整然と整備され清潔で美しい学校
4 保護者や地域に信頼され，心のよりどころとなる学校

目指す生徒像
1 元気な挨拶，明るい笑顔，「はい」という返事，自分の考えを伝えられる生徒
2 目標をもって意欲的に学習する生徒
3 与論に誇りをもつ生徒
4 自尊感情をもち，仲間を尊重する活力あふれる生徒

めざす職員像
1 常に学び続ける職員
2 教育への使命感をもち，自ら燃え，情熱を傾ける職員
3 チームとして生徒一人一人を育てる職員
4 保護者や地域に愛され，信頼される職員

「島だち」後の社会を生き抜く力の育成

海洋教育科「ゆんぬ学」で育成する資質・能力

【島立ち】
与論島に生きる人々との関わりの中で自己肯定感・自己有用感を高めるとともに，粘り強くしなやかに探究する心を育てる。

【島発ち】
与論島の強みや問題点について理解し，それらをつなぐことで与論島の概念を形成する。

【島建ち】
与論島の強みや問題点から自分なりの問いを見いだし，仮説を立て，自分にできることを実践する。

海洋教育科「ゆんぬ学」の目標

海と人との共生に係る見方・考え方を働かせ，与論島の海とくらしの課題について探究することを通して「島だちの力」を身に付ける。
(1) 探求的な学習の過程において，地域の人，もの，ことから課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け，地域の良さに気づき，その良さが人々の努力や工夫に支えられていることに気付く。
(2) 地域や社会の中から課題を見出し，解決に向けて，仮説をもとに調査したり，情報をもとに考察したりする力を身に付けるとともに，考えたことを，根拠をもとに表現する力を身に付ける。
(3) 探求的な学習に主体的・協働的に取り組み，地域や社会の発展に寄与しようとする態度を育成する。

海と人との共生に係る見方・考え方

海と人に親しむ	海と人をつなげる	海と人を守る	海と人を生かす
与論の海や与論に生きる人々の魅力を，豊かな感受性をもって捉える	海に囲まれた与論の自然や文化と，そこに生きる人々とのくらしを関連付ける	与論の海の環境保全や，離島である与論のくらしの持続について考える	与論の海や与論に生きる人々を，よりよい未来を創造するための資源として捉える

各学年の重点目標及び主な活動，指導内容

1学年【広げる】	2学年【絞る】	3学年【深める】	特別支援学級【感じる】
郷土に関する講話などから産業や職業に対する理解を深める。また，修学旅行に向けた大牟田の学習，地域の特色をいかした体験活動を通して，与論島に関する知識を広げ，主体的に学ぶ力の基盤を培う。	1・2年で体験・見聞したことなどから，自分なりに与論島の強みや課題を絞り，わかりやすく伝えられるように，表現力を高める。また，地域の人とのふれあいの中で，自己の生き方について考え，立志式等への取組を通して，生き方を追求する態度を身につけさせる。	2学年で見つけた問いに対する自分なりの解決策を考えるなど課題を深め，レポートにする。また，卒業後の進路についての活動を通して，自己実現に意欲的に向かう姿勢をもたせ，地域や社会の発展に寄与しようとする態度を育てる。	海の素晴らしさに感動する態度を育み，安全に海に親しむ方法を学ぶ。
【活動例・指導内容】 ・集団体験学習での海に関する講話，海でのマリンスポーツ，安全に関する講話 ・郷土学習や修学旅行事前学習（口之津移住に関する史実の理解等） ・ユンヌフトゥバ学習 ・職業調べ，職業講話 ・修学旅行に向けた事前学習 ・小学6年生との交流会	【活動例・指導内容】 ・与論島に関する講話・見学 ・修学旅行（大牟田・荒尾地区与論会との交流等） ・ユンヌフトゥバ学習 ・伝統芸能体験 ・ミニレポート作成 ・与論町海洋教育フェア ・立志式	【活動例・指導内容】 ・職場体験学習 ・ユンヌフトゥバ学習 ・海洋教育のまとめレポートの作成 ・与論高校一日体験入学 ・文化祭 ・礼節を備えた自己表現	【活動例・指導内容】 ・該当学年での総合的な学習における活動への参加（生徒個人の実態に応じた対応をしながら，レポートへの取り組みについては，進路希望も聞きながら，本人，保護者と話をしながら，できる範囲で取り組んでいく。）

各教科との関連（身につけさせたい態度や能力など）

各教科	道徳	特別活動	その他の活動
教科の目標の中に「育成すべき力と態度」を見いだして，その向上に努める。（例：国語や英語の対話力など）教科の学習を通して，与論の海や海を通した世界とのつながりについて考える契機とする。また将来の生活に必要な知識や技能を習得させ，生涯にわたって学習する喜びを見出させる。	人間としての生き方についての自覚を深め，道徳的実践力を育成する。自己が属する様々な集団の意義について理解を深め，役割と責任を自覚し，集団生活の向上に努める。勤労の尊さや意義を理解するとともに，奉仕の精神をもって，公共の福祉と社会の発展に努める。「郷土の先人」，「不屈の心」，「与論のことわざ」等を活用し，郷土の伝統と文化を尊重し，郷土を愛する態度を育成する。	人間としての生き方についての自覚を深め，自己を生かす能力を養う。学校行事では，「集団体験学習」，「修学旅行」，「文化祭」などの行事で「育成すべき力と態度」を育てることを意識した指導を実践していく。	朝読書の活動や給食指導，保健指導，生徒会活動等あらゆる教育活動の中で「育成すべき力と態度」を見いだして，その能力・態度の向上に努める。（例：朝読書の中での情報収集・判断力の育成など） 進路指導においても島だちを見据えた指導を行い，高等学校卒業後に自立した生活を送れるよう郷土に誇りをもち，その良さを発信できる対話力を高めていく指導を実践していく。

国語	多様な情報の中から必要なものを選択し，目的に応じて整理するとともに，相手に分かりやすく伝える能力	保健体育	課題解決のために，自ら解決のために努力したり，グループで協力したりしながら解決する態度
社会	社会的事象から必要な情報を選択する能力，及び自ら課題を調べて解決する態度	技術家庭	身近な生活に問題を見いだし，よりよい生活を目指して解決しようとする態度
数学	数学を生活や学習に生かそうとする態度，問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度	外国語	コミュニケーション能力の基礎を身に付けスピーチやディベートなどで自己を表現したり他者を理解したりする能力
理科	自然の事物・現象に進んで関わり，科学的に探求しようとする態度	美術	表現方法のひとつとして，美術的な様々な表現方法を身につける
音楽	表現方法のひとつとして，音楽の基礎的な技能を身につける		

海洋教育科「ゆんぬ学」R6年間指導計画　　令和6年度

第１学年

学期	No.	月	日	内容	地域
一学期	1	4	9	オリエンテーション	
	2		23	集団体験学習に向けて①	
	3	5	7	集団体験学習に向けて②	
	4		14	集団体験学習に向けて③	19 22
	5		22	集団体験学習事前指導	
	6		23	トークフォークダンス 与論町の良さや課題を知る 80分	①
	7				
	8		23	海洋汚染に関して	4
	9				
	10		24	マリンアクティビティ体験 及び安全確保の基礎知識	6
	11				
	12	6	8	実施：「課題解決」ボードゲーム 講義：「アイディアを実践へ」	②
	13		11	与論の良さや課題を知る①（教相）	
	14		12	与論の良さや課題を知る②（教相）	
	15		13	与論の良さや課題を知る③（教相）	
	16		14	与論の良さや課題を知る④（教相）	
	17	7	2	着衣水泳	8
	18				
二学期	19	9	18	文化祭に向けて（表現活動①）	
	20		24	表現活動②	
	21		25	表現活動③	
	22	10	1	表現活動④⑤	
	23				
	24		8	選択制郷土学習	
	25				
	26		9	選択制郷土学習のまとめ	
	27		15	表現活動⑥⑦	
	28				
	29		24	表現活動⑧⑨（リハーサル）	
	30				
	31		28	表現活動⑩⑪	
	32				
	33		31	表現活動発表（文化祭）	
	34				
三学期	35	1	21	ボードゲームを作ろう（導入）	③
	36	2	4	ボードゲームを作ろう（実施）	④
	37				
	38		18	ユンヌフトゥバ学習	11
	39				
	40		26	口之津、大牟田移住の歴史に学ぶ	
	41	3	19	1年間のまとめ	

第２学年

学期	No.	月	日	内容	地域
一学期	1	4	9	オリエンテーション	
	2		18	十五夜踊り講話	
	3		23	十五夜踊り見学	
	4	6	8	与論の産業等に関する講話 ～自分の問いを見つける～ インタビュー実践 （地域サポーター追加：鹿児島大学、清水建設）	20 21 ⑤
	5				
	6		11	与論に関するミニレポート作成①（教相）	
	7		12	与論に関するミニレポート作成②（教相）	
	8		13	与論に関するミニレポート作成③（教相）	
	9		14	与論に関するミニレポート作成④（教相）	
	10	7	4	着衣水泳	8
	11				
	12		9	インタビュー：中間フィードバック 「テーマ」の共有 「アイディアを実践に繋げよう」	⑥
	13				
	14		10	与論に関するミニレポート作成⑤	
	15		16	与論に関するミニレポート作成⑥	
	16		17	与論に関するミニレポート作成⑦	
二学期	17	9	18	文化祭に向けて	
	18		25	伝統芸能体験①②	
	19				
	20	10	1	与論に関するミニレポート作成⑧	
	21		2	与論に関するミニレポート作成⑨ →中間フィードバック会	⑦
	22		8	伝統芸能体験③④	
	23				
	24		16	伝統芸能体験⑤⑥	
	25				
	26		22	伝統芸能体験⑦⑧	
	27				
	28		24	伝統芸能体験⑨⑩(リハーサル)	
	29				
	30		25	伝統芸能体験⑪⑫	
	31				
	32		31	伝統芸能発表（文化祭）	
	33				
	34	12	3	ユンヌフトゥバ学習	11
	35		4	発表に向けた資料作成①	
	36		6	与論高校ゆんぬ発表会見学	なし
	37				
三学期	38	1	8	発表に向けた資料作成②	
	39		9	発表に向けた資料作成③	
	40		11	ミニレポート発表会	
	41				
	42		28	ヨロン海洋教育フェア	
	43				
	44				
	46	2	18	職場体験学習に向けて①	
	47		19	職場体験学習に向けて② アイディアを町に伝えよう！	⑧
	48		26	1年間のまとめ	

第３学年

学期	No.	月	日	内容	地域
一学期	1	4	9	オリエンテーション	
	2		23	課題レポート作成に向けて（進捗確認）	
	3		24	職場体験学習に向けて① （職業図鑑作成に向けて）	⑨
	4		30	職場体験学習に向けて②	
	5	5	7	職場体験学習に向けて③	
	6		8	職場体験学習に向けて④	
	7		20	職場体験学習事前指導	
	8		21	職場体験学習1日目	
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14		22	職場体験学習2日目	
	15				
	16				
	17				
	18				
	19				
	20		23	職場体験学習3日目	
	21				
	22				
	23				
	24				
	25				
	26		24	職場体験学習まとめ① （職業図鑑づくり）	⑩
	27				
	28	6	11	職場体験学習まとめ②（教育相談）	
	29		12	職場体験学習まとめ③（教育相談）	
	30		13	職場体験学習まとめ④（教育相談）	⑩
	31		14	職場体験学習まとめ⑤（教育相談）	
	32	7	3	ユンヌフトゥバ学習	
	33		5	着衣水泳	8
	34				
	35		10	与論の現状や課題レポート作成に向けて①→大学生との交流会	⑪
	36		17	与論の現状や課題レポート作成に向けて②	
二学期	37	11	26	与論に関する課題レポート作成①	
	38		27	与論に関する課題レポート作成②	
	39	12	3	与論に関する課題レポート作成③	
	40		4	与論に関する課題レポート作成④	
	41		11	与論に関する課題レポート作成⑤	
	42		17	与論に関する課題レポート作成⑥	
	43		18	1年間のまとめ	

「総合的な探究の時間」の全体計画(案)

与論高等学校(全日制課程)

「総合的な探究の時間」の目標

探究の見方・考え方を働かせ，横断的・総合的な学習を行うことを通して，自己の在り方生き方を考えながら，より良く課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 探究の過程において，課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け，課題に関わる概念を形成し，探究の意味や価値を理解するようにする。
（知識及び技能）

(2) 実社会や実生活と自己の関わりから問いを見い出し，自分で課題を立て，情報を集め，整理・分析して，まとめ・表現することができるようにする。
（思考力，判断力，表現力等）

(3) 探究に主体的・協働的に取り組むと共に，互いの良さを生かしながら，新たな価値を創造し，より良い社会を実現しようとする態度を養う。
（学びに向かう力，人間性等）

スクール・ミッション

与論島の地域に根ざした普通科高校として,連携型中高一貫教育と小規模校のよさを生かしたきめ細やかな指導で生徒一人一人の可能性を伸ばすとともに，予測が困難なこれからの時代に必要とされる資質・能力の育成を通して，地域のよりよい未来づくりに貢献する学校を目指します。

学校の教育目標

憲法，教育基本法の精神にのっとり，「好学の気風」「創造の精神」「親和の態度」「不屈の根性」の校訓のもと，知・徳・体の調和のとれた心身ともに健康で豊かな人間形成をめざし,わが国の文化と伝統を尊重する態度と国家・社会の進展に寄与できる有為な人材を育成する。

重点目標「予測が困難な時代を主体的に生き抜く力をもった生徒を育成する。」

年度の重点

海洋教育を柱とする地域における諸課題を発見し，協働して解決する資質・能力を養う。
(1) 社会や地域の現状を理解し，テーマに対する「問い」を設定することができる。
(2) 高校生として，諸課題に対して解決に向かう提案をすることができる。

各学校において定める目標

(1) 学校と地域との連携を深める中で，郷土理解を深め，郷土における課題を発見し解決しようとする過程を通して郷土の発展に貢献しようとする態度を育成する。
(2) 国際理解，情報，環境，福祉，健康など，現代的・総合的な課題について，中高一貫教育の前期3年間における中学校での取組を発展進化させながら，これらの課題に適切に対応できる能力を育成する。
(3) キャリア学習を通して自己の在り方・生き方について主体的に考えることができる能力を育成する。

学校・課程・学科の実態

島内唯一の高等学校であり，島内の中学生の多くが中高一貫入試を経て，入学してくる。
本校設置学科は普通科のみであり，2年次から大学進学から就職まで幅広い進路に対応する総合コースと，主に大学進学を目指す文理コースに分かれている。

地域・社会の実態

地域住民の教育への関心は高い。
与論町海洋教育推進協議会や地域のサポーターから支援や指導が受けやすい環境にある。
大学が高大連携として，生徒の探究活動に対して指導助言する機会がある。

保護者・教職員の願い

自らの進路や自分と未来との関わりを意識し，自ら学ぶ姿勢を身に付けさせる。
卒業後島外に出る生徒がほとんどであるため，社会の一員として必要な基本的生活習慣と社会規範を身に付けさせる。

育成を目指す資質・能力等

〈探究課題の解決を通し育成を目指す資質・能力〉

(1)知識及び技能

課題の発見と解決に必要な知識及び技能を習得する。
探究の意義や価値，具体的な探究の手法を理解する。

(2)思考力・判断力・表現力等

地域と自己の関わりから問いを見いだし，自ら課題を設定することができる。
設定した課題の探究のための情報の収集，整理分析を行い，それらを適切にまとめ，表現することができる。

(3)学びに向かう力,人間性等

設定した課題の探究に向けて，主体的に取り組もうとする。
自己と他者を互いに尊重して適切な関係を構築し，協働的に探究活動に取り組もうとする。

〈教科・科目等を越えた全ての学習の基礎となる資質・能力〉

(1)情報活用能力

学習課題に関する情報を幅広く収集し，整理，分析して目的に応じて情報を活用することができる。

(2)言語能力

自分の考えをまとめ，的確に表現することができる。

考えるための技法の活用

グループ活動
ディスカッション
フィールドワーク
マッピング
ワールドカフェ

各学校において定める内容

学習課題(領域)	探究課題(具体的内容)
現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題(環境)	与論島が抱えている自然環境問題と，グローバルな環境問題 少子高齢化や労働人口減少に関する問題
地域や学校の特色に応じた課題	与論島の海を取り巻く環境問題 地域の農業や特産品の現状と課題 地域の伝統や文化と，その継承についての諸問題
生徒の興味・関心に基づく課題	小学校・中学校から引き続き探究していきたい課題 各教科の授業を通して学んだことから見つけた課題
職業や自己の進路に関する課題	職業の選択と社会貢献及び自己実現 働くことの意味や価値と社会的責任

各教科・科目との連携

地域を触媒とした総合的な探究と教科・科目等との双方向による連携を行う。

小・中学校，大学，高等学校間での連携

与論町海洋教育推進協議会との連携のもと，小学校から続く海洋教育を引き継いでいる。
また，連携型中高一貫校として，中等教育6年間を見通したキャリア教育を行う。中学2・3年時に，校内課題研究発表会を聴講し，中学校での探究活動に活かし，高校入学後の1年時には，中学校での探究活動のレポート等を使って，探究活動の導入を行う。
探究シンポジウムや中間報告会では，大学の先生方にオンライン等で参加していただくことで，高大接続を図る。

学習活動

1年次はグループ活動，2年次は個人での活動を中心として，地域の課題等をもとにテーマを設定し，フィールドワーク等の活動を実施する。また，中間発表や最終発表を実施し，活動の報告や振り返りができるようにする。
3年次については，2年次までの活動を基に，各自の探究活動の成果を研究紀要としてまとめる。

指導方法

- グループ活動を中心とした協働的な活動の充実
- 教科・科目等との関連性を重視した指導の充実
- 発表会等において自分の考えを表現するための環境の充実

学習の評価

複数の評価チームでの評価
ポートフォリオを活用した評価の充実

指導体制

- 校務分掌の中に「総合的な探究」係を設置し，指導方法の検討・改善・充実を行う。
- 各学年部所属の職員全員で計画的な指導を実施する。
- 教材については，目標を達成できるように，係を中心として学校全体で準備する。

＊ 二重線で囲んだ箇所は，記載必須項目。

＊「各学校において定める内容」については変更点も大きく，例を記載した。

与論高等学校

第１学年

	月	日	時数	タイトル	内容	事務局（地域）	摘要
1学期	4	11		オリエンテーション	目的・意義について，年間計画		
		18	③	探究に向けて	研究活動の進め方「課題研究における『問い』とはなにか」		
		25		探究に向けて	研究活動の進め方「先行研究を活かそう」		
	5	2		探究に向けて	研究活動の進め方「先行研究を活かそう」		
		9		探究シンポジウム	課題研究の楽しさ		
		9	⑤	探究シンポジウム	ワールドカフェ「ヨロンについて話そう」		
		16		探究スタート	「問い」を決めよう		
		23		探究スタート	「問い」を決めよう（グループ設定）		
		30		探究スタート	「問い」の答えを予測してみよう		
	6	6		体育祭予行（終日）			
		13		探究スタート	自分たちの考えをシェアしよう		
		20	③	探究スタート	今年のテーマを決定しよう（グループの再設定）		
		27		探究スタート	グループで話し合い，メインテーマを決める		
	7	4		クラスマッチ			
		11		フィールドワーク	フィールドワークの計画を立てよう		
		18	③	終業式			
				フィールドワーク	フィールドワークを行う		
2学期	8			夏休み			
				フィールドワーク	集めた情報をシェアする		
	9	5		文化祭準備			
		12		中間ワークショッププレ	①理由②現状③問い④仮説をまとめよう		
		19	⑤	中間ワークショッププレ	①理由②現状③問い④仮説をまとめよう		
		26		中間ワークショップ	今までの探究内容を地域サポーターと一緒に話し合ってみよう		
		26		中間ワークショップ	今までの探究内容を地域サポーターと一緒に話し合ってみよう		
	10	3		中間ワークショップポスト	何が足りないのか，自己評価をしよう		
		10		研究をまとめる	スライドの作り方		
		17	⑤	研究をまとめる	スライドにまとめよう（表紙・目次・研究背景）		
		24		研究をまとめる	スライドにまとめよう（研究の目的・意義）		
		31		研究をまとめる	スライドにまとめよう（研究方法）		
	11	7		研究をまとめる	スライドにまとめよう（結果・考察）		
		14		研究をまとめる	スライドにまとめよう（結論・展望・引用文献・参考文献）		
		21	④	研究をまとめる	発表練習		
		28		研究をまとめる	発表練習		
	12	5		校内発表会	オーラルプレゼンテーションをしよう		
		5		校内発表会	２年生のポスター発表に参加しよう		
		12	④	校内発表会ポスト	振り返りシートとコメントから今までの自己評価をしよう		
		19		校内発表会ポスト	新たな問いを確認する		
				冬休み			
3学期	1	9		探究スタート	テーマを設定しよう		
		16		探究スタート	テーマを設定しよう（先行研究や事例から現状把握）		
		23	⑤	探究スタート	テーマを設定しよう（先行研究や事例から現状把握）		
		27		海洋教育フェア			
		27		海洋教育フェア			
		30		探究スタート	多くの問いからリサーチクエスチョンを導こう		
	2	6		探究スタート	多くの問いからリサーチクエスチョンを導こう		
		13		ロードレース			
		20	④	卒業式			
		27		探究スタート	みんなでリサーチクエスチョンをシェアしよう		
	3	6		（自宅学習）			
		13		探究スタート	先行研究を探そう		
		19	③	探究スタート	課題研究計画書を完成させ，年間自己評価をしよう		
				春休み			

フィールドワーク

調べ学習と課題研究の違いを学ぶ

研究テーマの設定について学ぶ

データの収集方法について学ぶ

スライドを使ったプレゼンテーションについて学ぶ

問いからリサーチクエスチョンを導く方法を学ぶ

研究テーマの設定について学ぶ

与論高等学校

第２学年

	月	日	時数	タイトル	内容	事務局（地域）	摘要
1学期	4	11	③	オリエンテーション	新たな問いを確認する（前年度の確認）		
		18		研究スタート	先行研究をまとめよう		
		25		研究スタート	先行研究をまとめよう		
	5	2	⑤	研究スタート	研究方法について調べよう		
		9		探究シンポジウム	課題研究の楽しさ		
		9		探究シンポジウム	ワールドカフェ「ヨロンについて話そう」		
		16		研究スタート	どの研究方法を行うか		
		23		研究スタート	どの研究方法を行うか		
		30		研究スタート	仮説を立てよう		
	6	6	③	体育祭予行（終日）			
		13		研究スタート	仮説を立てよう		
		20		修学旅行ＬＨＲ			
		27		修学旅行			
	7	4	③	クラスマッチ			
		11		フィールドワーク	フィールドワークの計画を立てよう		
		18		終業式			
				フィールドワーク	フィールドワークを行う		
2学期	8			夏休み			
				フィールドワーク	集めた情報をシェアする		
	9	5	⑤	文化祭準備			
		12		中間ワークショッププレ	①分析②仮説の検証をまとめよう		
		19		中間ワークショッププレ	①分析②仮説の検証をまとめよう		
		26		中間ワークショップ	今までの探究内容を地域サポーターと一緒に話し合ってみよう		
		26		中間ワークショップ	今までの探究内容を地域サポーターと一緒に話し合ってみよう		
	10	3	⑤	中間ワークショップポスト	何が足りないのか，自己評価をしよう		
		10		研究をまとめる	ポスターの作り方		
		17		研究をまとめる	ポスターにまとめよう（表紙・目次・研究背景）		
		24		研究をまとめる	ポスターにまとめよう（研究の目的・意義）		
		31		研究をまとめる	ポスターにまとめよう（研究方法・結果・考察）		
	11	7	④	研究をまとめる	ポスターにまとめよう（研究方法・結果・考察）		
		14		研究をまとめる	ポスターにまとめよう（結論・展望・引用文献・参考文献）		
		21		研究をまとめる	ポスターにまとめよう（最終確認→印刷）		
		28		研究をまとめる	発表練習		
	12	5	④	校内発表会	１年生のオーラルプレゼンテーションに参加しよう		
		5		校内発表会	ポスター発表をしよう		
		12		校内発表会ポスト	振り返りシートとコメントから今までの自己評価をしよう		
		19		校内発表会ポスト	校内発表会から課題を見つけよう		
				冬休み			
3学期	1	9	⑤	研究の深化	論拠を中心に論の進め方が正しいか確認しよう		
		16		研究の深化	修正した箇所を地域サポーターや先生と確認しよう		
		23		研究の深化	修正した箇所を地域サポーターや先生と確認しよう		
		27		海洋教育フェア			
		27		海洋教育フェア			
		30		要綱/論文執筆	研究要綱について説明		
	2	6	④	要綱/論文執筆	研究要綱/研究論文の構成を理解しよう		
		13		ロードレース			
		20		卒業式			
		27		要綱/論文執筆	研究目的・意義		
	3	6	③	（自宅学習）			
		13		要綱/論文執筆	研究目的・意義		
		19		研究の深化	年間自己評価をしよう		
				春休み			

研究方法を学ぶ

仮説の立て方を学ぶ

フィールドワーク

ポスタープレゼンテーションを学ぼう

課題研究のまとめ方を学ぶ

論拠の大切さについて学ぶ

与論高等学校

第３学年

	月	日	時数	タイトル	内容	事務局（地域）	摘要
1学期	4	11	③	オリエンテーション	要綱執筆・学年発表の内容について確認する		
		18		要綱/論文執筆	研究方法・結果・考察		
		25		要綱/論文執筆	研究方法・結果・考察		
	5	2	⑤	要綱/論文執筆	研究方法・結果・考察		
		9		探究シンポジウム	課題研究の楽しさ		
		9		探究シンポジウム	ワールドカフェ「ヨロンについて話そう」		
		16		要綱/論文執筆	引用文献・参考文献・付属資料		
		23		要綱/論文執筆	全体のチェック（要旨・体裁・文献）		
		30		研究のまとめ	学年発表会の準備をしよう		
	6	6	③	体育祭予行（終日）			
		13		研究のまとめ	スライド作成		
		20		研究のまとめ	スライド作成		
		27		研究のまとめ	スライド作成		
	7	4	③	クラスマッチ			
		11		学年発表会			
		18		終業式			
2学期	8			夏休み			
	9	5	⑤	文化祭準備			
		12		課題研究			
		19		課題研究			
		26		課題研究			
		26		課題研究			
	10	3	⑤	課題研究			
		10		課題研究			
		17		課題研究			
		24		課題研究			
		31		課題研究			
	11	7	④	課題研究			
		14		課題研究			
		21		課題研究			
		28		課題研究			
	12	5	④	校内発表会	１年生のオーラルプレゼンテーションに参加しよう		
		5		校内発表会	２年生のポスター発表に参加しよう		
		12		課題研究			
		19		課題研究			
				冬休み			
3学期	1	9	④	課題研究			
		16		課題研究			
		23		課題研究			
		30		課題研究			
	2	6	④	課題研究			
		13		ロードレース			
		20		課題研究			
		27		課題研究			
	3	1	①	卒業式			

研究要綱の書き方について学ぶ

フィールドワーク

2024年度　各校での学習指導案

与論小学校
茶花小学校
那間小学校
与論中学校
与論高等学校

単元名	与論の文化や行事について調べよう	学期／時数	2学期/⑪・3学期/⑨
ねらい	○　与論の文化や行事について調べ，それらが現在まで受け継がれてきた意義について考えることができる。 ○　与論の文化や行事について調べる活動を通して，ふるさとへの思いや自己の生き方につなげて考えることができる。		

月	時	主な学習活動	教師の具体的なはたらきかけ
10	1	1 与論の文化や行事について話し合う。 2 課題設定をする。	・　昔から伝わる行事にどんなものがあるか話し合わせ，学習意欲を高める。 ・　何について調べたいか考えさせ，ヨロン海洋教育フェアで発表をするを知らせ，調べたことはスライドにまとめることを視野に入れて学習計画を立てさせる。
11	2～9	1　与論の文化や行事について，グループで調べる。 【例】 浜下り，豊年祭（内容），旧正月，島唄，与論の食べ物等が考えられる。 ※十五夜踊り以外	・　インタビューや見学をしたり，図書館の資料や「わたしたちの与論町」，などを活用させたりする。 ・　調べていく中で分かったことは，まとめてファイルさせる。
12	10～14	1 調べたことをまとめる。 2 発表準備をする。	・　調べて分かったことをグループごとに役割分担をして，スライドにまとめさせる。 ・　2学期中に発表準備（発表原稿など）を終わらせ、1月は校内リハーサルができるようにする。
1	15～17	1 校内リハーサルをする。 2 砂美地来館でリハーサルをする。 3 海洋サミットに参加する。	・　管理職・海洋教育担当と校内リハーサルを行う。 ・　発表時間を確認する。（R4年度は10分間） ステージの会場準備をした状態でリハーサル ・ができるので，立ち位置などを確認させる。 他の学校の発表の聞き方なども指導する。
	18～19	1 ヨロン海洋教育フェアで発表をする。	・　発表後には，自分たちの発表振り返りや各学校の発表を見た感想を書かせる。
3	20	1 学習を振り返る。	・　調べ学習や発表を通して考えたことを発表し合い，ふるさとへの思いや自己の生き方につなげて考えさせる。

4年

単元名	与論の恵みの味	学期／時数	1学期／⑥　3学期／⑪
ねらい	○　与論の特産物であるさとうきびを栽培し，黒糖を昔ながらの方法でつくることで，先人の知恵や苦労を体験することができる。		

月	時	主な学習活動	教師の具体的なはたらきかけ
4	1～3	1　さとうきびについて「どんなイメージをもっているか」考えを出し合う。 2　与論のさとうきびについて調べる。	・　イメージを出し合う際は，ブレーンストーミング法を使い，自由に出し合えるようにする。ブレーンストーミング法の説明も事前に行う。 　事前に，育て方の資料を準備していおく。
5	4･5	3　きび農家の方をお招きし，さとうきびについて学ぶ。	・農家の方と連絡を取り，日程を調整する。 ・事前に子供たちからの質問をまとめるなど，有意義な時間になるりょうに準備をしておく。
6	6･7	1　さとうきびの苗を植え，畑を作る。 2　定期的に手入れを行う。	・　除草は，つる性の植物を中心に行わせる。また，まきつくと成長を妨げるという理由を説明する。
1	8･9	1　きびかりをする。	・　学校農園のきびの量では足りないと思われるので，きびかりをさせてもらえる保護者へ事前に依頼をする。（学級PTAの際にお願いするとよい）
	10-14	1　黒糖づくりをする。	・　民俗村で黒糖づくりをするため，12月ごろには連絡をし，日程を押さえておく。
2	15-16	1 黒糖を使ったお菓子作りに挑戦する。	・　家庭科の調理実習で学んだことが生かせるよう
3	17	1　学習の振り返りを行う。	・

5年

「令和６年 与論町立茶花小学校３年 海洋学習」 授業計画案

1 単元 「ユンヌたんけんたい」

2 指導観

○ ねらい　本単元では，自分たちの地域にある自然や，施設・観光地等を教材として取り入れる。活動を通して，自分の地域にある魅力に気付き，地域に対する理解を深め，コミュニティの一員として地域を大切にしようとする意識を高める。

○ 構 想　・与論島の海岸に行き，生息する生き物や自然に触れる。

・海岸の様子を観察し，また実際に海遊びをする中で，その魅力や，環境の問題を発見する。

・海遊びの中で気になったことや調べてみたいことをテーマに，調べ学習や実験を行う。

3 目標

○ 自然や観光地に触れる体験活動を通して，自分の住む地域の魅力に気付き，地域を大切にしようとする意識を高める。

○ 海遊びの中で探求したいテーマを探し，テーマをもとに探求を進める楽しさを味わう。

段階	時間	学習活動	指導上留意した点・活動の様子
導入（体験活動を行いテーマを探す）		○計画を立て海の生き物探しに行ったり，地域の自然を見に行ったりする。 ① 与論の海にいる生き物を，これまでの経験をもとに共有し，海遊びへの思いを高める。 ② 生き物を見つけたり，つかまえたりするにはどんな道具が必要か考え，計画を立てる ③ 海遊びを行い，海にどんな生き物がいたか，どんなところが楽しかったか等ワークシートにまとめる。 ④ 赤崎鍾乳洞に行き，内部を探検したり，ガイドの方の話を聞いたりする。 ⑤ 体験をもとに，テーマを決定する。 海で見つけたペットボトルの浮かぶ力を使えば，船を作って海遊びができるのではないか	・ 海遊びで自然の魅力に目を向けられるよう，生き物が海のどんな場所にいたか，どんなところに隠れていそうかなど考えさせる。 ・ 自ら定めたテーマを探求する喜びを味合わせるため，気になったことや，不思議に思ったこと，もっとこうしたいという思いを付箋に書かせ，皆でまとめさせる。

展開（テーマについて探求し実験する）		○　テーマをもとにイカダや船について調べたり，実際に作成したりする。 ⑥　ペットボトルを使って，グループごとにイカダを作り，プールに浮かべて実験する。 ⑦　実験の結果をもとに，クラス全員が乗って遊ぶにはどんな形のイカダにすればよいか，皆で調べ話し合う。 ⑧　話し合ったアイデアをもとに全員が乗れるイカダを作る。 ⑨　作ったイカダを海に浮かべ，皆で海遊びをする。	・　探求の楽しさを味わせるため，どんな形ならしっかりと人が乗れるのか，どんな工夫をすれば壊れないかなど，自分たちで調べたり考えたりさせながら作らせる。 ・　イカダや船について調べる中で，サバニなど与論島の船についても紹介し，興味を広げさせる。
まとめ		○　探求活動を通してわかったことや，感じたこと，さらに調べてみたいこと等をまとめる。 ⑩　感想をワークシートにまとめ，発表する。	・　次年度の学習につながるよう，できたことや，もっとやってみたいことを中心に振り返らせる。

＜児童の感想＞

（導入時）

・海遊びでたくさんの魚やカニを見つけて驚いた。（海遊び後）

・おもしろい模様の魚がいて楽しかった。（海遊び後）

・また海で生き物を見つけたい。（海遊び後）

・地面の下にこんなに広い場所ができるなんてすごい（鍾乳洞探検後）

（展開時）

・ガムテープだと真ん中で壊れてしまった。（グループでのイカダ試作実験後）

・みんなでのるにはペットボトルが何個いるのか気になった。（グループでのイカダ試作実験後）

・ペットボトルに乗ることができてうれしかった。（グループでのイカダ試作実験後）

（まとめ時）

・本当に浮かぶか心配だったけど，みんなで乗れてうれしかった。

・昔の船はどうやって作っていたのか気になった。

・波でイカダが動いていって，どこか行きそうだった。

「令和６年 与論町立茶花小学校３年 海洋学習」 授業計画案②

1 単元 「与論と私達～特産物から～」

2 指導観

○ ねらい 本単元では，自分たちの地域で生産されている生産物やそれに携わる生産者の方々を教材として取り入れる。活動を通して，自分の地域に根付く農業生産の魅力に気付き，理解を深め，地域で作られた生産物やそれに関わる生産者を大切にしようとする意識を高める。

○ 構 想 ・与論島で作られる生産物について学ぶ。

・実際に生産者の方に学びながらじゃがいもを育て，じゃがいも生産を体験する。

・生産したじゃがいもや与論の食材を使った料理を作り，地域の生産物を味わう。

3 目標

○ 地域の生産者の方に学びながらじゃがいもを育て，収穫する喜びを味わい地域で作られた生産物やそれに関わる生産者を大切にしようとする意識を高める。

段階	時間	学習活動	指導上留意した点・活動の様子
導入	2	○生産者の方から話を聞き，じゃがいも作りについて計画を立てる。 ① じゃがいもについて調べ，どんな料理が作れるか調べる活動を通して意欲を高める。 ② 生産者の方からじゃがいもの生態や作り方について話を聞き，計画を立てる。 じゃがいもを育てるには，どんなくふうをすればよいのだろう。	・ 地域で作られている生産物に目が向くよう，普段食べている料理や，食べてみたい料理の材料を考えさせる。 ・じゃがいも作りに意欲的に取り組むために，どんな料理を作るか想像させる。

展開	9	○　計画をもとにじゃがいもを育てる体験を行い，気付いたことをまとめる。 ③　生産者の方の畑を借りてじゃがいも植え体験を行う。 ④　体験して気付いたことや感想をワークシートにまとめる。 ⑤　じゃがいもの世話を行い草とりや土かぶせを行う。 ⑥　体験して気付いたことや感想をワークシートにまとめる。 ⑦　生産したじゃがいもを収穫する。	・　実際の体験から気付いたことや気になったことへテーマを広げるため，生産者の方（叶さん）の説明を聞いたり，アドバイスを受けたりしながらじゃがいも作りを実施する。 ・　畑にいけない時期にも観察を行わせるため，学校の花壇にもじゃがいもを植え，生長の様子を確かめさせる。
まとめ	4	○　収穫したじゃがいもを調理し，感想や新たに調べたいことを考える。 ⑧　収穫したじゃがいもと，与論島の食材を使って料理を作る。 ⑨　ジャガイモ作り全体の感想や，料理への感想，新たに調べたくなったことなどをワークシートにまとめる。	・　次年度の学習につながるよう，感想だけでなく，できたことや，もっとやってみたいことを中心に振り返らせる。

＜児童の感想＞

（導入時）

・じゃがいもがいろいろな料理になることがわかった。はやく育ててみたい。

・じゃがいもの食べている部分が茎と知って驚いた。

・じゃがいもには毒の部分があるとわかったので気を付けたい。

（展開時）

・土がかたくて，穴をほるのが大変だった。土をかぶせるのも大変だった。（植え付け時）

・半分に切ったじゃがいもから芽が出るがすごいと思った。（植え付け時）

・草がたくさん生えていたので，とるのがとても大変だった。つかれた。（草取り時）

・地面の中にたくさんじゃがいもがうまっていて，うれしかった。（収穫時）

・たくさんとれて良かった。またとりたい。（収穫時）

（まとめ時）

・おいしいカレーが作れて良かった。じゃがいものあげた料理がおいしかった。また食べたい。（調理時）

・与論のお肉やにんじんもおいしかった。じゃがいもを育てられて良かった。（調理時）

・たくさんじゃがいもがもらえてうれしい。また他の野菜も育ててみたい。（収穫後）

「令和６年　与論町立那間小学校　かごしま景観学習」　授業計画案

１　単元　　那間（ユンヌ）の「魅力」発信

２　指導観

○　ねらい

本単元では，「自分のまちの景観」を教材として取り上げる。本活動を通して，那間に生活する人々の思いを聞き取り，那間の「景観」についての理解を深め，地域の思いやよさを発信し，積極的に関わっていこうとする意欲を育てる。

○　構　想

・那間小校区（与論島）のよさや「景観」と人々の関わりについて調べる。

・「景観」と共に生活する人々の関わりに気付き，自分たちも継承していく必要があるということに気付く。

・最後に，地域の思いを発信し，「景観」を継続し，発展するために自分ができることを考え，実践する。

３　目標

○　景観学習を通して，「景観」に関わる自分のまちの歴史や人の思いを知ることで，自分のまちへの思いや愛着を深めることができる。

○　「景観」を守るために（よりよくするために），地域の一員として自分にできることを考え，実現に向けた計画を立案し，実践することができる。

４　単元計画

段階	時間	学　習　活　動	教師の支援（○）県の支援（◆）
景観と出会う	２	１　「景観」の意味や景観学習の目的を知り，課題を設定する。 ・「景観」について話を聞きく。 ・那間校区の歴史について学ぶ。 ・那間の「景観」を通して，その魅力を伝えるために何ができるかを考え，学習計画を立てる。	◆講師派遣（６月） ○地域の歴史や人々の努力があり，「景観」が守られていることを押さえる。 ○自分たちにできることは何かという視点で課題設定するよう助言する。
景観について調べる	１１	２　校区を散策し，那間の「景観」を調べる。 ・あらかじめ立てた計画に沿って，実際に校区散策しながら，土地利用の様子を白地図にまとめる。 ・那間の魅力発信につながる，他の校区にはない那間校区独自の景観はどのようなものか考える。 ・調べていきたいことをもとにグループをつくる。（産業・観光・歴史・自然）	○なぜ，その「景観」が那間の魅力発信につながるかを考えさせる。 ○地域サポーターと連携し，児童の興味・関心に合わせて授業を展開する。
整理・分析	６	３　那間の「魅力」発信につながる景観について調べる。 ・魅力発信につながる理由を出し合う。 （１１月　那間っ子フェアで中間発表） ・「景観」を守るために，自分たちにできることはないか話し合う。	○単元導入を想起させ，自分たちから進んで，校区に関わろうとする意欲を高められるようにする。
まとめ・表現	９	４　調べたことをもとに，那間の魅力を発信する。 ・魅力をまとめたマップやポスターを作成する。 ・那間の「景観」を守るためにできることを行動宣言としてまとめ，実践する。	◆講師派遣（２月） ◆自分たちの学習成果を発表し，「景観」を守る行動宣言を行う。

第４学年活動計画案

□　**単元名**　ユンヌの海の魅力～地域を支える自然にふれて～

□　**学習のねらい**

与論島は海に囲まれた島で，海は子供たちにとって身近な自然そのものだ。「シーグラスって何？」というテーマを設定し，海に親しみをもち，興味をもつきっかけとする。

□　**授業の実際（１６・１７時間目／３０時間）　　場所：ゆいパンタ**

学習過程	時間	学習活動	発問や児童の反応 発問　反応
導入	３０分	○　始めのあいさつをし，本時の学習のねらいについて，話を聞く。 ○　ゲストティーチャー（鈴木さん）の自己紹介 ○「シーグラスとは何か？」という問いに対して，自分の体験から考える。 ・どこから来て，どのようにしてできるのか ・ビーチマネーについて	シーグラスを拾った時どうだった？ ぬれている時は，透明だった。色々な色，形があった。 シーグラスはもともとは，ガラス製品。波にのまれて「角」が取れてこの形になったよ。
展開①	２０分	○　シーグラスに触れる。 ○　珍しいシーグラスの色等について知る。 ・自分で集めたシーグラスを見ながら考える。 ○　シーグラスが減ってきている理由について考える。 一人　→　グループ　　→　全体	シーグラスには，レアキャラがいるよ。どんな色だと思う？ オレンジはあまり見たことがないな。青や緑は多いような…。 どうしてシーグラスが減ってきたのかな。 瓶のポイ捨てが減ってきたのではないかな。 瓶ではなく，プラスチック製品が多くなってきたのかな。
展開②	６０分	○　自分でとってきたシーグラスを使ってオリジナルフォトフレームを作る。 ・形や色に注目しながら作る ・個人でテーマを決めてつくるようにする	
まとめ	１０分	○　自分のフォトフレームの発表をする。 ○　授業のまとめをする。	シーグラスの色を生かして魚やカメを作りました。

第３学年活動計画案

□　**単元名**　ユンヌ大発見　～身近な人・自然からユンヌを学ぼう～

□　**学習のねらい**

与論の自然や土地の様子を調べることにより，与論の良さに気付き，郷土に愛着をもつことができる。

□　**学習計画（全３０時間）**

過程	学習活動	教師の支援
つかむ・見通す　②時間	1　ユンヌのいいところついて話し合う。 ○　自分が住んでいる地域（家の近く）はどんなところか，みんなに自慢したいもの，他の場所にはないもの，紹介したい場所はないか考える。 （文化・生き物・海・食べ物・歴史・施設・人・環境等の良さを引き出す）	・教師自ら，与論に来て驚いたことや感じた事を紹介し，子供が気付きやすいようにする。 ・思いついたどんな小さな自慢でもたくさん出させ，意欲付けをする。（ワークシートの活用）
深める　㉗時間	2　取材にでかける。 ○　じまんをさがしに自然に出かけよう （昆虫・鳥・植物探し） ○　じまんをさがしに海に出かけよう （生き物・貝殻採集）→皆田海岸・船倉海岸 ○　じまんをさがしに島をめぐろう （施設・観光地探検）→サザンクロスセンター ※　デジタルカメラや水中カメラを用いて記録をとるようにする。 3　「じまん大会」の準備をする。 ○　自分が紹介したい自慢について，伝え方を工夫してまとめる。 ・絵にかく　・地図にかく　・作文にする ・本にする　・紙芝居にする　・動画にする ・劇　・新聞　・クイズ　など 4　「じまん大会」を開く。	・畑や海などへ実際に行き，じまんになりそうなものを見つける活動を計画する。 ・商店等に立ち寄り，インタビューができるように事前に協力依頼をしておく。 ・海においては，グラスボート体験ができるように手配しておく。 ・地域サポーター等に協力を依頼する。 ・様々な表現方法について紹介し，自分にあったものを選ぶことができるようにする。 ・不足している情報については，休日等を利用して収集するよう呼びかける。（家庭の協力） ・授業参観等で多くの方に見てもらえるように工夫する。
まとめる①時間	5　感想を交流し，学習のまとめをする。 ○　一人一人の作品等を見合い，良さの交流をする。	・今回の学習の手法や学びをこれからの学習に生かせるように確認する。 ・発表資料や作品は，データで保管しておき，次年度の活動に生かせるようにする。

□　授業の実際・・・じまんを探しに海に出かけよう（８・９・１０時間目）　場所：皆田海岸

過程	学習活動	教師の支援
つかむ・見通す	1　本時の学習について話し合う。 ・海へ観察に行く目的 ・海での注意事項 2　本時のめあてを確認する。 （皆田海岸）で，与論の海のじまんを探そう。	・ユンヌの海のじまんを見つけるという学習の目的を確認し，主体的に学習できるようにする。 ・校外学習に行くため，安全面に十分注意するよう，具体的な例を挙げながら指導する。特に海での行動について確認しておく。
深める	3　（皆田海岸）へ移動し，海岸散策をする。 ・海岸でビーチコーミング ・砂浜や潮だまり等で生き物観察 4　グラスボート体験をする。 ・グラスボートに乗り，ゲストティーチャーの説明を聞く。 ・ウミガメやサンゴの観察をする。 ※グラスボートの運転手やゲストティーチャーと観察スポットなどを事前に打ち合わせをしておく。 ※事前学習で児童から出た疑問や興味をもっていることについても共有しておき，課題解決につながるようにする。 ～道具等～ デジカメ・水中カメラ・虫かご・魚とり網 タブレット　等	・事前にゲストティーチャー・町のバスの申請をしておく。活動に必要な道具類も確認し，準備しておく。 ・ビーチコーミングをしながら海岸清掃ができるようにする。 ・生き物や植物を教室で調べられるように，写真や動画を撮っておくように指導する。また，まとめる活動でも活用できるようにする。 ・グラスボートで酔いやすい児童には，事前に酔い止め等の声掛けをしておく。 ・海の色や砂浜の様子，リーフの様子など自然の美しさや素晴らしさに気付けるように観察の視点を与えるようにする。 Ｒ６年度・・・グラスボート（本園さん）
まとめる	5　感想を交流し，学習のまとめをする。 ・本時の学習を振り返り，どんなじまんを見つけたか発表する。 ・これからの学習活動について見通しをもつ。	・海でのじまん探しを通して見つけたことをメモしておくように指導する。 ・児童の感想や疑問をもとに，今後の学習活動を計画できるようにする。

与論中学校学習指導案

海 洋 教 育 科 学 習 指 導 案

1年生２クラス：計55名

指導者
教諭　末廣
講師　福井・磯村
地域協力者　22名

1　題材名　トークフォークダンス
「与論町の魅力・良さ」、「与論町の課題・問題」とは

※トークフォークダンスとは：フォークダンスのように、どんどん相手を変えて対話をする方法。外・内と２重の円を作って座り、向かい合わせになった相手と対話をしたら、外側に座った人だけ左にずれていく。どんどん新しい人と会話していくので、たくさんの人とコミュニケーションとることができる方法。

2　本時の実際

(1) 目標

・「与論町の魅力・良さ」、「与論町の課題・問題」について地域の方と対話することを通し、自分の考えを伝え、他者の意見を聞き自身の考えを広げ深める。
・対話を通し、地域の現状への理解を深め，探究の「問い」へと繋げる興味・関心のある分野を見つける。

(2) 展開

	学習活動	時間	指導上の留意点
導入	1　講師・参加者の紹介	5分	○　授業に協力してもらう、地域協力者の自己紹介
	2　学習課題の確認 学習課題	5分	○　地域の方が参加し対話する意義を理解させる。

展開	3　トークフォークダンスの補足説明 4　トークフォークダンス実施 トークテーマ①「与論町の魅力・良さ」 （2 分×8 回） 休憩 5　トークフォークダンス実施 トークテーマ②「与論町の課題・問題」 （2 分×8 回）	5 分 16 分 8 分 16 分	○　内円と外円でクラスを分ける。生徒の間には、地域の方を配置する。普段会話をしない相手との対話ができる環境設定をする。 ○　ワークシートは事前に生徒に配布し、テーマに対し自分の考えが記入できるようにする。 ○　対話を通して感じたことや発見をワークシートに記入できるようにする。
終末	6　まとめ 「与論町の魅力・良さ」、「与論町の課題・問題」とは？ 　他者に伝えることで、自分の考えが明確になった。立場の違う人や普段話す機会の少ない人との対話を通し、新たな発見や再認識をした。	15 分	○　生徒、地域協力者数名から対話を通して感じたこと、発見を発表してもらう。

(3) 評価

・「与論町の魅力・良さ」、「与論町の課題・問題」について地域の方との対話を通し、自分の考えを伝え、他者の意見を聞き自身の考えを広げ深めることができたか。

・対話を通し、地域の現状への理解を深め，探究の「問い」へと繋げる興味・関心のある分野を見つけることができたか。

海 洋 教 育 科 学 習 指 導 案

1 年生2クラス: 計 55 名

指導者
教諭　大窪
講師　福井・磯村
地域協力者　27 名

1 題材名 「アイデアを町に伝えよう」:インタビュー
「探究学習で考えたことを地域に伝えて、フィードバックをもらい学習を深化する。」

2 本時の実際

(1) 目標

インタビュー:興味・関心のある人について知る
・必要な情報を聞き出したり、収集したりする。
・多くの情報から取捨選択できるようにする。
・関連情報にも目を向けて視野を広げる。
・コミュニケーション能力や社会性を養う。

(2) 展開

	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 点
導入	1　講師・参加者の紹介 2　インタビューの方法について説明 学習課題 インタビューを通して、興味関心ある分野を深掘りしよう。	5分 5分	○　授業に協力してもらう、地域協力者の紹介 ○　地域の方が参加し対話する意義を理解させる。
展開	3　インタビュー開始	30分	○ 1 グループ:生徒と地域サポーター含め 5 名程度で実施する。 ○ 事前に生徒に「興味関心のある分野」に関するアンケートを実施。回答を参考にインタビュー対象者を設定する。 ○ インタビュー用ワークシートを事前に配布 ○ 対話を通して感じたことや発見をワークシートに記入できるようにする。

終 末	6　まとめ 興味関心のある分野の方へのインタビューを通して、分野についての情報はもちろん「人となり」「雰囲気」「大切にしていること」などに触れる機会とした。また、「面白い、カッコいい、他の人に教えてあげたいと思った点」「その人のイメージや印象」など生徒一人一人が感じたことを記録し表現に繋げる。	5 分	○　生徒、地域協力者数名からインタビューを通して感じたこと、発見を発表してもらう。

(3) 評価

・インタビューを通し、興味関心のある分野について必要な情報を聞き出したり、収集することができたか。
・関連情報にも目を向けて視野を広げることができたか。
・インタビューを通して、初めて会う方とのコミュニケーションを楽しむことができたか。

総合的な探究の時間「探究シンポジウム」学習指導案

実施期日　令和6年5月10日(金)5・6校時
実施クラス　全校生徒（126名）
指導教室　与論高等学校　体育館

1　目的

課題研究をとおして行う探究活動を始めるにあたり，様々な領域で活動している地域住民及び大学スタッフとの討論から，生徒の知見を広げる。

2　計画

前半	「教えて先生！興味を探究するってどんなこと！？」 **「海の色は何色？～常識を覆す身近な問い～」**
後半	ワールドカフェ×3回 20グループに分かれて，生徒の司会を立てて対話する 「与論島の良い点・改善点をたくさん語ろう！」

3　講師

20人（講話4名＋ワールドカフェ16人）

4　授業内容

時間	活動	場所	備考
12:30	各場所に集合	1年：被服室 島袋先生 2年：小体育館 久保先生 3年：体育館 藤枝先生	講師の先生方から，15分×3コマ話を聞く。 進行　：講師担当 1年　吉留先生：一瀬先生 2年　秋葉先生：黒木先生 3年　石山先生：猶木
12:30～45 12:50～05 13:10～25 (55)	大学の先生方による講義 ・学年ごとに話を聞く少人数での講義 講師の移動 体育館　→　小体育館　→　被服室 →　体育館　の順でローテーション		
	移動	体育館	
13:35～ 13:55(20)	東京大学横山先生による講義(15) 及びサイエンスキャンプの説明(5)		進行：猶木
	移動		
14:00	ワールドカフェの説明（猶木）	体育館	生徒ファシリテーターが司会進行。 地域サポーター・講師1人，生徒6～7人構成で，20グループで行う。
14:05～ 14:20(15)	ワールドカフェ①(田畑)		
14:25～ 14:40(15)	ワールドカフェ②(田畑)		
14:45～ 15:00(15)	ワールドカフェ③(田畑)		高校職員は様子を見て，生徒の割り振りなど。
片付け後，教室にて感想等記入			いすは各自で片付け， シートは2-2を中心に片付ける
15:10～	終礼	各教室	
15:10～ 15:30(20)	講師とのフィードバック （猶木，田畑）		

ワールドカフェは，15分3回転する予定だが，当日の各グループの話し合いの様子を見て10分にする，2回転にするなど，進行は臨機応変に対応する。

総合的な探究の時間「校内報告会」指導案

実 施 期 日　令和６年12月６日(金) ５・６校時
実施クラス　1･2 年生及び３年進路決定者
指 導 教 室　与 論 高 等 学 校　　体 育 館

１　目的

(1)　課題研究の発表の場を設けることで，生徒の表現力を育成する。
(2) 生徒間で発表を見たことで感じたことや，地域サポーターからの質問や助言を今後の探究活動の進化に役立てる。

２　計画

前半	１年（12 グループ） ・２会場でオーラルプレゼン，発表・質疑応答併せて 10 分 ・ＰＰＴでスクリーン投射してプレゼン。サポーター，オーディエンスの順番で質疑応答する。
後半	２年（45 グループ） ・ポスタープレゼン，発表・質疑応答あわせて 15 分 ・２班に分かれて，制限時間内にボードに貼った複数回プレゼンする。各班２回発表する質疑応答は随時（要タイムキーパー）。

３　授業内容

時間	活動	備考
12:30	開会式	
12:45～ 13:45	１学年発表 体育館・小体育館にて各６グループ １グループ発表・質疑応答併せて 10 分	司会 体育館：吉留 小体育館：一瀬
	移動	
14:00～ 15:00	２学年発表 体育館 28 グループ 小体育館 12 グループ 14:00～14:30　奇数番号グループ 14:30～15:00　偶数番号グループ	タイムキーパー 体育館：黒木先生 小体育館：秋葉先生
	移動	
15:05～	閉会式・講評 サイエンスキャンプ４期生のお知らせ	

※　オンラインにて東京大学，鹿児島大学より聴講あり

児童・生徒発表資料

与論の文化体験

与論小学校　４年

十五夜について

十五夜おどりは、トゥンガトゥンガのときに、琴平神社で行われています

大旗について

大旗は十五夜踊りで使われるどうぐの一つです。大旗には二匹の龍と嶋中安穏と書かれています。二匹の龍の上には、太陽を表している赤い丸が書かれています。

太陽を表す赤い丸

１番組の説明

１番組は、本土風のおどり方です。

一番組

仮面

二番組

琉球風の舞踊を取り入れた踊りです。

与論の伝統
芭蕉布の体験について

糸芭蕉の説明

糸芭蕉は，バナナの仲間です。

糸芭蕉

芭蕉布について

さいばいを終えた糸芭蕉

はた結びの練習

はた結びの練習をしました。

これが練習しているところです。

糸を巻く作業

糸巻き軸につないだ糸を巻きます。

糸車

機織り

機織りをしている様子

機織り機

〈完成した芭蕉布〉

与論の食文化について

① ミシジマイ

② ウンニーマイ

1．ミシジマイについて

ミシジマイとは・・・与論の郷土料理で、いろいろな具が入ったご飯です。

2．ミシジマイの作り方

3．完成したみしじまい

完成したミシジマイ

4．ウンニーマイについて

ウンニーマイとは
いも　と　もち　をまぜた料理です。
いろいろな種類の芋を入れる
家庭もあります。

5．ウンニーマイについて

ウンニーマイの作り方・・・ふかした芋を，餅と混ぜます。

6．ウンニーマイについて

完成したウンニーマイ

これで与論の文化体験の発表を終わります。

与論の海を守ろう

那間小学校
５年生発表

与論の海で

与論の今と昔について

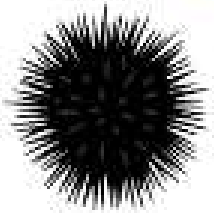
昔は、サンゴもいっぱいありました。
今は、サンゴがなくなっていたり魚が減ってきています。

サンゴも今と比べると、昔のほうが、いろとりどりできれいです。

与論の今と昔について

昔は、ウニや魚がいっぱい、いました。
今は、減少しています。

魚が減っている理由は、
ウミガメが、海そうを食べてしまうからです。



与論の今と昔について

昔の海は、すき通って緑もありきれいでした。
今の海は、昔よりかは、汚いです。

昔の海は、ゴミの量は多かった。
今は、昔と比べると、
少なくなってます。

① サンゴについて
サンゴを守る取り組みについて

②ウミガメについて
ウミガメを守る取り組みについて

③海ごみについて
ごみの再利用について
ごみを出さない取り組みについて

① サンゴについて

サンゴについて

サンゴのいいところ～

1.魚のすみかになっている
・世界中の魚の25%

2.台風の波を弱くしてくれる

サンゴについて

サンゴは最近減ってる!!
原因
①地球温暖化

サンゴ
ちょうどいい水温　18°～28°
　与論の水温　20°～30°

サンゴについて

サンゴは最近減ってる!!
原因

②オニヒトデが増えている!
③赤土が雨に混じって海に流れてくる

サンゴについて

昔のサンゴ～

足のふみ場のないくらい
海にサンゴがある。

(ミナタ海岸)

サンゴについて

今の海～

機械でけずった後の海

(ミナタ海岸)

サンゴを守る取り組みについて

サンゴを守る取り組みについて

さんご増殖体験

サンゴを守る取り組みについて

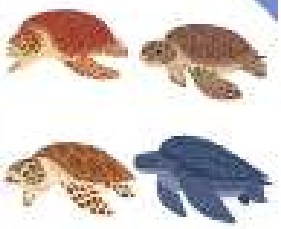
サンゴを折ってしまうので、
慣れないフィンキックはやめましょう

日焼け止めは
自然由来する成分で作られたものを
使いましょう

② ウミガメについて

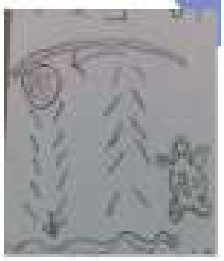
ウミガメについて

ウミガメの種類
- 赤ウミガメ
- 青ウミガメ
- タイマイ
- オサガメ



ウミガメについて

足あとは、ハの字
卵の大きさは、ピンポン玉くらい
卵の量は、一度に100個



ウミガメについて

涙を流しているように見えるのは、
体の中の余分な塩水を
だしているそうです。

ウミガメについて

オスとメスのちがい

砂の温度が29.5℃より低いとオスになりやすい
砂の温度が29.5℃より高いとメスになりやすい

ウミガメについて

ウミガメが減っている理由

ウミガメは、ゴミをクラゲと間
違えて食べて帰ちゃいます。
それで減ったりしています。

海がめを守る取り組みについて

海がめを守る取り組みについて

ウミガメを守るためには、ゴミ拾いをすることです。

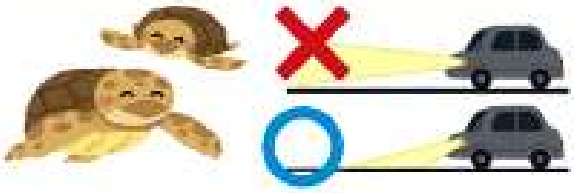
海にゴミが落ちているときは、
それをひろって 拾い箱に入れてください。

海がめを守る取り組みについて

ごみ拾い

海がめを守る取り組みについて

車のライトを**ロービーム**にするなどしましょう。



③ 海ごみについて

海ごみについて

2017年から
海謝美が
始まった。
今年で67週目

海ごみについて

海ごみについて

2011年東日本大震災のゴミが
津波で流れてきた。
実際に**2018年**に漁協のゴミが
流れ着いた

海ごみについて

夏と冬で取れる
ゴミの量が違う
夏が多い

一番 中国
二番 日本
三番 マレーシア

ゴミの見分け方
バーコードの三桁見る

中国 690~699
日本 450~459
マレーシア 955

海ごみについて

海流によってゴミが流れ着く

ゴミの再利用について

ゴミの再利用について

アップサイクル ・・・より質の良いものを作ろうという願いがこめられている。

ペットボトルのキャップから
キーホルダーや、拾い箱の板を
作る取り組み。

ゴミの再利用について

拾い箱の板
木材・・れっかしやすい！
ペットボトルのキャップ・・とても丈夫で硬い！
うまくいけば2メートルくらい長くなる。

ゴミの再利用について

キーホルダー
ペットボトルのキャップを細かくして型にいれる。そうするとキーホルダーができる。
リサイクルにもアップサイクルにもなるから環境にも優しい。

リサイクルやアップサイクルなどをして海を守ろう！

ゴミの再利用について

キーホルダーのアップサイクル

ごみを出さない取り組みについて

ごみを出さない取り組みについて

1つ目エコバック！

エコバックを持ち歩いてほしい
少しでもゴミを減らしてほしい

ごみを出さない取り組みについて

2つ目　量り売り
与論にはまだない
（海ゴミに関わる人の事務所にだけある）
与論以外では、少しずつ増えてる

ごみを出さない取り組みについて

3つ目　皿洗いの工夫！

みかんの皮でお皿の油を取る工夫！
みかんの皮で拭き取ってから食器用洗剤を使う！

おわり

那間小学校
5年生発表

ご指導ありがとうございました

池田龍介さん・漁協の皆さん
池田香菜さん・海謝美の皆さん

与論中学校　2年

テーマ
「防災意識を高める、
各家庭用防災パンフレット」

与論中学校　2年　平川綾乃

《テーマ設定の理由》

「いだいだポーチ」

持病の説明書や常備薬、
緊急時の連絡先リスト、趣味のもの　など、水や食料のような重たいものを含まないポーチ

与論島での防災についてもっと島の人に知ってもらい防災に活かしてほしい

《調査方法》

(1)本で調べる　①令和元年～4年度町勢要覧

(2)インターネットで調べる　①与論町の防災サイト

(3)2024年7月17日から21日にかけて生徒にアンケート　を行う

①各家庭の防災意識についてアンケート

②防災パンフレットに掲載してほしい内容のアンケート

《現状での取り組み》

〈防災情報が乗っている公式HPや資料〉

・「与論町ホームページ」
・「ヨロン町観光ガイド」
・「与論町防災マップ」
・「土砂災害警戒区域」
・2023年9月の「広報ヨロン　与論町の防災Q&A」

〈与論町ホームページ〉
・町からのお知らせ、避難場所、防災マップ、地域の防災・減災、国民保護、の情報

〈ヨロン町観光ガイド〉
・観光客のための緊急・災害時などの情報

〈与論町防災マップ〉
・避難場所、海抜、緊急連絡先、非常持出品、土砂災害警戒・特別警戒区域など

〈土砂災害警戒区域〉
・土砂災害警戒区域に指定された位置が載った防災マップ

〈与論町の防災Q&A〉
・与論町消防署長、消防団団長、役場の「災害対策本部」の担当者、与論高校で与論の防災について研究していた生徒への質問とその回答をまとめたもの

公式HPや資料

様々な人へ向けたもの ⇒ 与論町の防災意識は高く感じられる

しかし…しばらく更新されていない情報もある

➡ 最新のものに更新し、より正確な情報を伝える

↓

島に住む人達の防災意識が高められているのか調べるため与論中学校の生徒にアンケートを取る

《各家庭の防災意識》

2024年7月17日から21日まで、生徒39名にPCのフォームにてアンケートを行った結果	
1 与論島が出している防災マップを確認したことがありますか	
はい24人	いいえ15人
2 もし災害が起こったときのことを家族と話したことはありますか	
はい22人	いいえ17人
3 家庭で防災への取り組みを少しでも行っていますか	
はい16人	いいえ23人
4 3の取り組みで具体的にどのようなことを行っていますか	
・避難場所や避難ルートの確認 ・食料やその確保 ・避難時持ち出しバッグの用意	

問1 はい 24人61.5%

問2 はい 22人56.4%

問3 はい 16人41%

簡単な防災は行われているが、非常用持ち出し袋を作るなどの取り組みは行われていない

➡ 与論島での防災の仕方を知らない人が多いのではないか

《これからの与論の防災に向けて》

島の人達の防災知識を深めるために

➡ 防災情報をまとめたパンフレット

↓

与論中学校の生徒にパンフレットに載せてほしい情報のアンケート

2024年7月17日から21日まで、生徒39名にPCのフォームにてアンケートを行った結果
1 与論島での防災について書かれたパンフレットに載せてほしい情報、載せたほうがいいと思う情報はなんですか
・避難所 ・正しい避難の仕方 ・避難するときに持っていたほうがいいもの ・危険箇所 ・避難時間 ・ペットの避難の仕方 ・避難所の様子や過ごし方 ・状況にあった避難ルート ・写真を付けたマップ ・海抜 ・普段からしておいたほうがいいこと

《多かった意見》

・避難場所 ・避難の仕方 ・避難経路
・避難するときにもっていたほうがいい物
・危険箇所 ・写真を付けた避難マップ
・避難所の様子や説明
・避難した後したほうがいいこと

《少なかった意見》

・ペットの避難の仕方 ・避難時間
・優先的に避難したほうが良い地域
・建物が多い場所
・津波が起きたときの予想被害者数
・被害者を減らすための取り組み

《考察》

・内容が多くなってしまう ・居住地域によって内容が変わる 情報がある

➡「島民全員のための防災パンフレット」は難しい

必要な情報を家族で集め、パンフレットにまとめる

↓

「各家庭用防災パンフレット」

例えば…

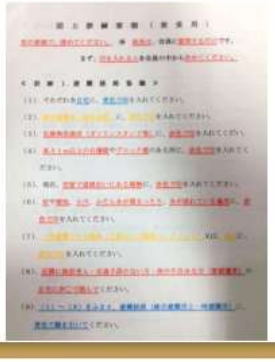
・自分の家やよく遊びに行く場所からの　避難場所、避難経路

・避難経路の中にある危険箇所

・避難するときに持って行く物

など

《今後の課題》



◂若松さんから提供していただいた資料

〈課題1〉

作り方の資料の作成

〈課題2〉

「ペットの避難」や「避難所の様子や説明」など、防災サイトに載っていない　　情報をアップ

⇒防災知識を深めることで、パンフレットに書けないことが無いようにする

ご清聴ありがとうございました

「鳩の湖」はなぜ枯れないのか

鹿児島県立与論高等学校　２年　川口慈

1.研究背景と目的

主に琉球石灰岩で構成される鹿児島県与論島の海岸沿いに位置する「鳩の湖」。この水たまりについて島では「枯れたことがない」という伝承が伝わっているが、その根拠が科学的に示されたことはない。本研究は与論島の気候や「鳩の湖」の水の成分を分析し、「鳩の湖」がなぜ枯れないのかを明らかにすることを目的とした。

(a)「鳩の湖」の位置

https://www.google.co.jp/maps

(b)「鳩の湖」周辺

(c)「鳩の湖」

「鳩の湖」について

与論島の東側、奄美群島国立公園第1種特別地域内にある。
楕円形であり長径は約45㎝、短径は約25㎝、深さ約30㎝。日当たりの良い石灰岩の窪みに水が溜まっている。
方言では「パトゥノコー」といい、「パトゥ」は「鳩」、「コー」は「井戸」を意味し、「コー」に「湖」という漢字をあてて「鳩の湖」と呼ばれる。

先行研究の結果(竹内詩帆　2023年5月ICP-AES分析を用いた鹿児島県与論島の「鳩の湖」の水についての検証, 日本地球惑星科学連合2023)

(d) 元素濃度測定結果(2022年7月)

「鳩の湖」のCa濃度は雨水より高く地下水より低かった。Mg濃度は雨水、地下水より高かった。
➤たまった雨水が周囲の岩石を侵食することで成分が溶け、雨水より成分濃度が高くなっているのではないか。
(竹内　2023)

(e) 水位変動モニタリング結果(2023年4月)

9㎝を境に水位が下がりにくくなっていた。
➤「鳩の湖」は底から9㎝は水を通しにくい岩の層、その上は水を通す岩の層で構成されているのではないか。
(竹内　2023)

先行研究の仮説

①「鳩の湖」内に水が湧き出している　図(f)
②「鳩の湖」を形成する岩が層構造になっている　図(g)

(f)

(g)

2.研究方法

①採水調査(2024年6月15日~7月7日)

(h)

雨水、地下水、海水、
「鳩の湖」の底9cmより上層、下層（晴、雨）
を試料として採水。
(一週間以上晴れが続いたあとに(晴)を採水した。)
採水場所で水温、塩分、pHの測定を行った。

②ICP-AESによる成分分析(2024年7月29日~7月30日)

東京大学大気海洋研究所にてICP-AESを用い、各サンプルを希釈後Ca、Mgの濃度を測定。

希釈方法:サンプル溶液に5%HNO_3溶液を追加し、希釈溶液全量が12mlになるようにする
希釈倍率計算式:サンプル(mg)／サンプル＋硝酸5%NHO3(mg)

③先行研究の仮説を検証

先行研究の仮説である
①「鳩の湖」内に水が湧き出している
②「鳩の湖」を形成する岩が層構造になっている
を検証する。

3.結果・考察

元素濃度測定結果(2024年7月29日~7月30日)

(i)

「鳩の湖」上層、下層での結果に大差はなかった。海水とは大きく差があった。

雨水の混入が少ない「鳩の湖」の水と地下水との測定結果の比較

(j)

雨の影響を受けにくい晴れの日に採水した「鳩の湖」の水と地下水の測定結果には大きな差があった。「鳩の湖」と地下水の成分分布が逆になった。

採取した「鳩の湖」の水の塩分は全て0.00だった

塩分濃度0.00➡海水が起源である可能性は非常に低い。
「鳩の湖」と地下水の成分分布が逆➡たまった雨水に周囲の石灰岩の成分が溶け出しているが石灰岩の主成分である$CaCO_3$は溶解度が低いので、Mgほど数値が出ないのではないか。

与論島の年間降水量1798.1㎜と算出した年間蒸発量722.7㎜を比較すると降水量のほうが多い。
降水量引用https://www.jma.go.jp/jma/index.html
蒸発量計算サイトhttp://.blog.enjoy.jp/etc/HP/js/vapor/vap0.html
蒸発量計算式:蒸発量(mm)＝シャーウッド数×水蒸気の拡散係数(m2/s)×(水面の飽和水蒸気量(kg/m3)ー空気中の水蒸気量(kg/m3))/「鳩の湖」水面の面積(m2)×365日

4.結論

結果・考察より、塩分が0.00であること、地下水とは測定結果が大きく違い、また、地下水の方がCa、Mg濃度が高いこと、与論島の年間降水量が「鳩の湖」における蒸発量を上回ることから、「鳩の湖」の主な水の起源は雨水であると考えられる。また、上層・下層の測定結果に大きな差はなかったが、「鳩の湖」を形成する周辺岩石の層構造に関しては、今後さらに研究する必要がある。

5.今後の展望

・水位観測を実施する。晴れ続きの期間の実際の「鳩の湖」の水位変動と理論値を比較、降水後の実際の「鳩の湖」の水位変動と理論値を比較する。
・周辺の岩や穴内部の観察などさらなる現地調査を行う。
・完全に地下水が水の起源ではないとは言い切れないので、「鳩の湖」に地下水が混ざっているのか検証する方法を考える。
・今回分かったことを島の人に積極的にフィードバックする。

6.謝辞

東京大学大気海洋研究所横山祐典教授、平林頌子先生、宮入陽介先生、早川淳先生、阿瀬貴博先生、横山研究室の皆様、与論町海洋教育推進協議会の皆様、与論町教育委員会学務課・地域おこし協力隊　福井直美様、与論高校大倉秀心校長、黒木健吾先生、猶木香奈先生、有村商事様、サイエンスキャンプ1期生竹内詩帆様、大槌高校はま研究会の皆様、サイエンスキャンプチーム池田桧夏様、池田流玖様、川畑杏緒様、若杉大翔様
本研究を行うにあたって多くの方にご協力いただきました。ありがとうございました。

発表会・研修の報告

①　第５回ヨロン海洋教育フェア

1. 目 的　(1) 町内の小・中・高等学校が海洋教育の学習成果を共有することで，児童生徒の個々の学びを深める機会とする。

(2) 与論の海，海に守られた伝統・文化，海と共に生きる人々の姿について児童生徒と地域の大人が学び合うことで，海洋教育の地域展開を推進する。

2. 共 催　　与論町海洋教育推進協議会　　与論町教育委員会

3. 日　時　　令和７年１月２８日（火）

4. 会　場　　砂美地来館

5. 参加者　与論小学校　４年生　１６名　　与 論 中学校　２年生　　５４名
茶花小学校　６年生　２６名　　与論高等学校　1,2 年生　８６名
那間小学校　５年生　　９名　　（児童生徒　計１９１名）
その他，来賓，引率教員，海洋教育地域サポーター，保護者及び一般町民

6. 内 容

14：00 ～ 14：07（7）　開会式
・　開会のあいさつ（教育長）
・　フェアの流れの説明

14：07 ～ 14：17（10）　与論小学校の発表（４年生）
「与論の文化体験について（十五夜踊り・芭蕉布・食文化」

14：17 ～ 14：22（5）　共有タイム

14：22 ～ 14：32（10）　那間小学校の発表（５年生）
「与論の海を守ろう」

14：32 ～ 14：37（5）　共有タイム

14：37 ～ 14：47（10）　茶花小学校の発表（６年生）
「与論で育まれた伝統」

14：47 ～ 14：52（5）　共有タイム

14：52 ～ 15：01（9）　与論高校の発表（サイエンスキャンプの報告）

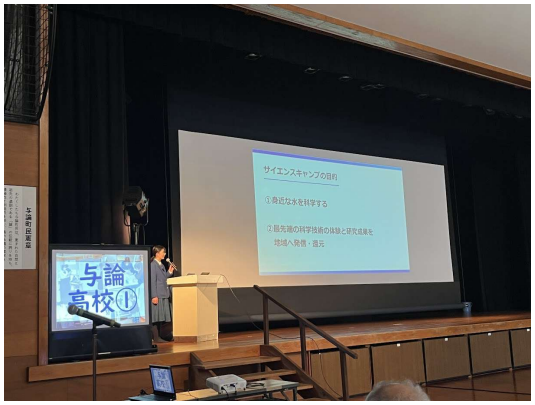
15：01 ～ 15：09（8）　休憩

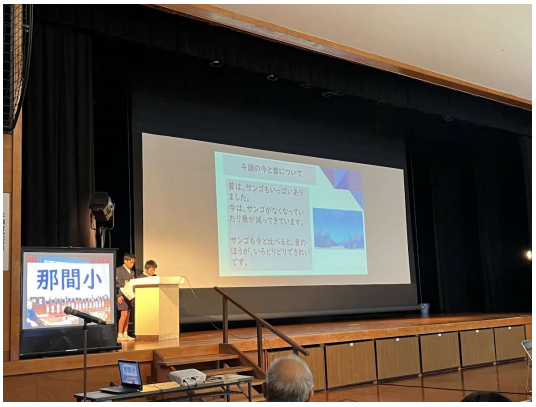
15：09 ～ 15：19（10）　与論中学校の発表（２年生）
「防災意識を高める、各家庭用防災パンフレット」
「女子サッカーを盛んにするために～好きなことを与論で続けられる環境へ～」

15：19 ～ 15：24（5）　共有タイム

15：24 ～ 15：40（16）　与論高等学校の発表（１・２年生代表者）
１年「人口減少の効果的な取り組みの模索」
２年「与論のムヌ」

15：40 ～ 15：45（5）　閉会式
・講評（鹿児島大学　南九州・南西諸島域イノベーションセンター
センター長　　特任教授　藤枝　繁）
・閉会のあいさつ（海洋教育推進協議会会長　池田　剛）





②　与論町教育研究会「海洋教育部会」

実施状況：３回（詳細は「内容」参照）

参加者：茶花小学校　　宮　下　真　和　教頭（海洋教育部会顧問）
与論小学校　　中　村　大　介　教諭（海洋教育部会部長）
茶花小学校　　帖　地　博　嗣　教諭（海洋教育部会部員）
那間小学校　　有　島　しほり　教諭（海洋教育部会部員）
与論中学校　　大　窪　真　吾　　教諭（海洋教育部会部員）
与論高校　　猶　木　香　奈　教諭（海洋教育部会副部長）
与論町教委　　宮　田　盛　博　指導主事

目　的：
町内全ての学校の海洋教育担当者による協議をとおして，与論町が推進する海洋教育の展開の在り方について検討する。

内　容：
〔第１回　令和６年５月１日（水）〕与論町役場　多目的ホール
・　海洋教育科『ゆんぬ学』について
〔第２回　令和６年９月１０日（火）〕GoogleMeet を用いたオンライン会議
・　「地域と連携した協動的な探究学習」を目指して
・　「第５回海洋教育フェア」について
〔第３回　令和６年１１月１３日（水）〕与論町役場　多目的ホール
・　「第５回海洋教育フェア」について
・　令和７年度　各学校予算（案）について
・　令和７年度　協議会予算（案）について

③　与論町教職員等夏季研修会

ゆんぬ学研修　①『与論のゆたかな海からゆんぬ学への活動へ繋げよう』
（　⇒　台風のため中止　）

②『三線で与論民謡を奏でよう』

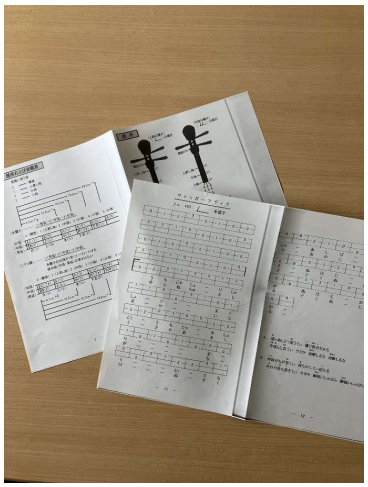
目的：体験を通して、与論町の歴史・文化や与論の海のゆたかさや課題を体感し、
各学校で行われている『ゆんぬ学』の活動充実に生かす。

参加者：与論町内小・中学校、高等学校職員　計 15 名

内容

1　NPO 法人　ヨロン SC・海の再生ネットワークよろん
「準備及び安全に海を楽しむために」・「与論の海の楽しみ方」についての講話
海洋体験：ビッグ SUP・シュノーケリング

2　与論エイサー団体舞弦鼓(ぶげんこ)リーダー 小高明日香さんによる
・体験を通して、与論の歴史・文化・島の心に触れる
・伝統体験:三線



④　沖縄県　国頭村・本部町　『ゆんぬ学』研修

目的：

・今後、児童・生徒が探究成果の発表などで島外と交流できる機会を企画する。
・児童・生徒が今後地域との交流、自身の探究結果を発表する場を探し、内容を企画する。
・新しい授業、授業内容の発展など児童・生徒の探究学習を深めることに繋げる。
意見交換を各学校、学校コーディネーター、事務局で行い今後の計画に繋げる。

会次第

国頭村　教育委員会　「世界自然遺産教育」

国頭村教育委員会　宮城　英誉　指導主事

1. 国頭村　教育委員会　自己紹介　・・・5 分
2. 国頭村「世界自然遺産教育」とは
   経緯や、プロジェクト計画など　・・・15 分
3. 活動内容学について
   学校の先生方や児童・生徒の様子、授業や課外活動について　・・・10 分
4. 地域との関わり方　・・・10 分
5. 他地域との交流、今後について　・・・10 分
6. 質問、交流タイム　・・・10 分

本部町 地域おこし協力隊　「教育魅力化プロジェクト」
本部町参加者 ： 本部町地域おこし協力隊・公営塾メンバー・小中学校の「総合的な学習の時間」のコーディネーター・本部高校の魅力化コーディネーター・教育委員会

本部町 地域おこし協力隊　「教育魅力化プロジェクト」

1. 本部町　地域おこし協力隊の自己紹介　・・・10 分
2. 本部町での教育魅力化プロジェクトとは　・・・10 分
3. 学校コーディネーターの活動内容　・・・15 分
   地域、行政、コーディネーター、学校の関わり方、繋がり方など

4. 高校魅力化担当の役割　・・・15 分

小学校、中学校との連携など

5. 推進部（事務局機能、全体統括）の役割　・・・15 分

6. 公営塾の現状、今後の展望　・・・15 分

公営塾と学校、地域、行政との関わり方など
質問、交流タイム　・・・10 分

⑤　与論町海洋教育「ゆんぬ」キックオフ研修会

実施日：令和６年４月１１日（木）

参加者：与論町内中学校・高等学校教職員・海洋教育推進協議会事務局

内容：　・与論町海洋教育の目的・実施内容・組織等、概要について学ぶ
・与論島の文化体験（三月三日浜下り）

プログラム

- 研修内容の説明・各自自己紹介（15 分）
- 海洋教育の概要 副読本/WEB サイトを使っての説明
- 海洋教育に関わる人や組織について
- 海洋教育でできること 地域サポーター・授業案の紹介
- R5 年度に回収した　生徒アンケートから見えてきたこと
- 今年度取り組みたいこと
- 三月三日【サンガチサンニチ】浜下りについて
- 与論町の食材等を体験する。

⑥　令和６年度　第２回　与論町海洋教育魅力化セミナー

～　島だちの力を育む探求型学習「与論町海洋教育」のご紹介　～

講　師：清水建設株式会社ビジネスイノベーション室 執行役員室長　アメッド モヒ　氏

実施日：令和６年６月１９日（水）

会　場：中央公民館　大ホール

参加者：与論町の方々、海洋教育推進協議会、教育委員会

内　容：与論町海洋教育の取り組み趣旨・目的を多くの島民に知っていただき、理解を深めていただくことで、更なる与論町海洋教育の発展につなげることを目指す。

プログラム

１．開会
　　与論町海洋教育推進協議会　会長
２．町長挨拶
３．与論町海洋教育の紹介
　　教育委員会　宮田　盛博　指導主事
４．特別講演　（３０分程度）
　　演目：これからの時代に必要な力　～有限の出会いを無限の可能性へ～
　　清水建設株式会社ビジネスイノベーション室 執行役員　室長　アメッド モヒ　氏
５．特別講演　（３０分程度）
　　演目：探究学習を通じた進路実現の可能性
　　鹿児島大学南九州・南西諸島域イノベーションセンター長　藤枝 繁　氏
６．特別講演　（２０分程度）
　　演目：最南端は最先端！与論町が目指す教育について　与論町教育長　中山　義和　氏
７．質疑応答
８．閉会の言葉
　　与論町海洋教育推進協議会　顧問

⑦　その他教育委員会としての取り組み

令和６年度　短期研修「ゆんぬ学」研修会

実施日：令和６年１１月２８日（水）

場　所：与論町役場　多目的ホール

参加者：鹿児島大学　南九州・南西諸島域イノベーションセンター
センター長　藤枝　繁
与論高校教職員
与論中学校教職員
茶花小学校教職員
与論小学校教職員
那間小学校教職員
与論町地域おこし協力隊　２名
株式会社まなび島　２名

内容：探究学習「ゆんぬ学・ゆんぬ」の今後の継続、発展のため、講師からアイディア、考え方を学び指導者が授業に繋げられるきっかけとする。

【前半　17:30-17:50】
小講義：「アイディア」の作り方

【後半　17:50-18:30】
ワールドカフェテーマ：「ゆんぬ学・ゆんぬ」での探究活動をより面白くするには？

その他添付資料

添付資料Ⅰ

拾い箱改修プロジェクト」の活動報告書

1. 事業名：拾い箱改修プロジェクト

2. 目的

地域で実施されているさまざまな活動に、高校生がボランティアとして参加できる機会を提供し、生徒たちが地域課題に触れ、学校での探究活動をより実践的で具体的なものにすること。

3. 主催:　与論町海洋教育推進協議会

4. 協力:　一般社団法人　E-Yoron

5. 実施期間：2024年2月16日・23日・24日

6. 実施場所：宇勝周辺の作業所・品覇周辺の作業所・寺崎海岸

7. 参加人数：3名（2年2組　柳澤恵礼和・貞愛音・岡本一莉）

8. 活動内容：アップサイクル材を活用した拾い箱の改修作業

9. 活動の様子

上6：改修中の様子

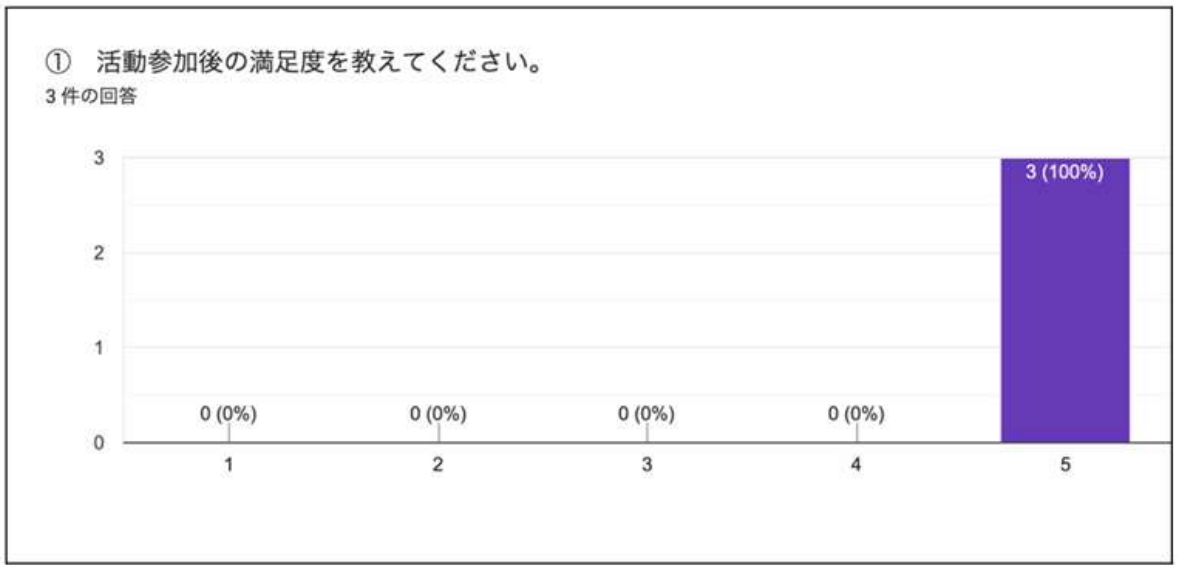
右側：改修前の拾い箱

左側：改修後の拾い箱

10. 活動成果

生徒たちは「身近にある環境課題を解決しようとする実践活動」に対して強い関心と行動意欲を抱いており、実際の作業を経験することで具体的な知識やスキルを得られたことが大きな収穫だったといえる。

（参考）生徒アンケート



②今回の活動に参加しようと思った理由を教えてください。

- 小学生のときに拾い箱を作ってみてめっちゃ楽しかったからです。
- 小5の時に拾い箱を実際に作って、高一の時にゆんぬの探究で拾い箱を作ろうと思っていたけど実行できなくていい機会だと思ったから
- 環境問題に興味があって、大学もそういうことを学べるところに行きたかったから

③活動を通して学んだことや、新しく気づいたこと、感じたことについて教えてください。

- 活動を通して、アップサイクルに興味が湧いてきました。今までは、ペットボトルのキャップを原料にアクセサリーを作っていることしか知らなかったけど、今回拾い箱改修にも使われていることを知って、とてもいい機会になりました。実際に参加して、アップサイクルの土台となる角材作りを経験してみて、プラスチック製の板が作られるまでにたくさんの工程があって出来上がるということを知って大変さに驚きました。
- 学校にもペットボトルのキャップを回収している箱があってそのキャップは何に使われているの知らなかったけど、そのキャップはアップサイクルに使われているんだと

いうことを知った。また、ペットボトルのキャップ回収ボックスを置いたことでキャップはたくさん集まったけど、汚れているキャップが多く地道に洗っていかないといけないことを知り、キャップについている少しの汚れがアップサイクルすると大きな汚れとなって目立つので一つずつ洗うのは本当に大変だなと思った。アップサイクルはたくさんの機械などへのお金や地道な作業をするための時間がかかるけど、少しでもゴミを再利用して埋め立てられる量が減ることは大事だと感じた。

- 拾い箱の改修プロジェクトをとおして 、課題解決のプロセスを実践できた。まず、現状の問題を把握して、利用者目線で使いやすさを考えながら改善策を検討することが大切なんだなと思った。実際に手を動かす中で、全員で協力しながら試行錯誤することができた。また、ただ改修するだけでなく、「どうすればより良くなるか」を考え、実行することの大切さを学んだ。完成した時の達成感は大きく、自ら行動することの重要性を実感できた。

④「こうしたらもっと良くなる！」と思うことがあれば教えてください。

- 話を聞くと、ペットボトルを地道に一つずつ洗う作業もとても大変そうで、そこの作業がもっと効率よくできたら良いのかなと思いました。

⑤ 今後、どんな地域活動・ボランティアがあれば参加したいですか？

- 海謝美のゴミ拾いボランティアです。
- なんらかのプロジェクト

11. 参加生徒の公募方法

下、文書を高校にて配布。

令和7年1月17日

県立 与論高等学校
ご担当者 様

与論町海洋教育推進協議会
地域コーディネーター
田畑 香織
080-4367-5810

探究活動促進のための地域活動（ボランティア）参加について（募集）

拝啓
日頃より、生徒の指導にご尽力いただき、また与論町海洋教育の推進へのご協力を賜り、誠にありがとうございます。
このたび、地域で実施されているさまざまな活動に、高校生がボランティアとして参加できる機会を提供する取り組みを進めております。この取り組みを通して、生徒たちが地域課題に触れ、学校での探究活動をより実践的で具体的なものにすることを目的としています。
つきましては、下記の地域活動について、教員の皆さまに生徒への参加の促進について、ご協力いただけますようお願い申し上げます。

【募集概要】
活動プロジェクト名：拾い箱改修プロジェクト
活動内容：拾い箱の改修（アップサイクル材を活用した改修作業）
募集人数：2～3名程度
活動期間：2月中 2～3回 参加者が可能な日程を調整します。
本活動の魅力：

- 拾い箱とはビーチクリーンなどで拾ったごみを捨てられる箱のことです。拾い箱を設置して誰でもいつでも気軽にごみ拾いができる仕組みです。「拾い箱」の設置は与論島から全国各地に広がっている取り組みです。「拾い箱プロジェクト」が海ごみゼロアワード2019で日本財団賞を受賞しております。
- 「海ごみ」「環境問題」「観光業活性化」「与論の魅力」のテーマで探究している生徒はぜひ参加してください。実践的な経験を通じて、探究活動に具体性を加えられます。

一緒に活動する大人：
一般社団法人 E-Yoron 池田龍介さん
E-YoronのHP： https://sites.google.com/view/eco-island-yoron
申込期日：1月31日（金）

参加申込方法：参加希望生徒よりメール送信
宛先：manabijima@teamyoron.com
件名：拾い箱改修プロジェクト参加
内容：学年・組・お名前 を記載ください。

参加生徒については、当方にて取りまとめ、与論高校にご報告させていただきます。

敬具

12. 参加生徒への活動証明証

ゆんめ学
地域活動証明書
与論高等学校
様
「拾い箱改修プロジェクト」
あなたは拾い箱改修プロジェクトにおいて、アップサイクル材を活用した改修作業を行い、環境保護・地域活性化・実践的な学びを通して持続可能な社会の実現に貢献しました。
この活動は、単なる資材の再利用にとどまらず、地域の環境を守り、人々が気軽にごみ拾いに参加できる仕組みを支える重要な取り組みです。
ここに、その功績を認えます。
活動場所：寺崎海岸（拾い箱）
期間：令和7年2月16日・23日・24日
令和7年3月5日
与論町海洋教育推進協議会
会長 池田 剛

ゆんめ学
地域活動証明書
与論高等学校
様
「拾い箱改修プロジェクト」
あなたは拾い箱改修プロジェクトにおいて、アップサイクル材を活用した改修作業を行い、環境保護・地域活性化・実践的な学びを通して持続可能な社会の実現に貢献しました。
この活動は、単なる資材の再利用にとどまらず、地域の環境を守り、人々が気軽にごみ拾いに参加できる仕組みを支える重要な取り組みです。
ここに、その功績を認えます。
活動場所：寺崎海岸（拾い箱）
期間：令和7年2月16日・23日・24日
令和7年3月5日
与論町海洋教育推進協議会
会長 池田 剛

ゆんめ学
地域活動証明書
与論高等学校
様
「拾い箱改修プロジェクト」
あなたは拾い箱改修プロジェクトにおいて、アップサイクル材を活用した改修作業を行い、環境保護・地域活性化・実践的な学びを通して持続可能な社会の実現に貢献しました。
この活動は、単なる資材の再利用にとどまらず、地域の環境を守り、人々が気軽にごみ拾いに参加できる仕組みを支える重要な取り組みです。
ここに、その功績を認えます。
活動場所：寺崎海岸（拾い箱）
期間：令和7年2月16日・23日・24日
令和7年3月5日
与論町海洋教育推進協議会
会長 池田 剛

13. 今後の課題と展望

今回の活動を通して、参加者は、地域課題への関心を深め、探究活動をより実践的に行うことができました。

今後は、

・より多くの生徒が、探究活動に地域活動に参加できるよう、PJTを増やすこと

・負荷を減らすために、募集・活動・協力団体との調整の仕組み化すること

・生徒のモチベーションを高く維持するために、参加者の学びの振り返りの実施と活動証明書の交付を行うこと

・先生の手間を軽減するために、海洋教育のホームページにて告知・参加申込する流れに以降したい。公募・活動・成果の情報共有は随時行う。

・高校生の探究的学びが加速するように、社会への貢献感が実感できるような活動との接続を強化し生徒たちの学びが有意義なものになるような機会の創出をしていきたい。

担当

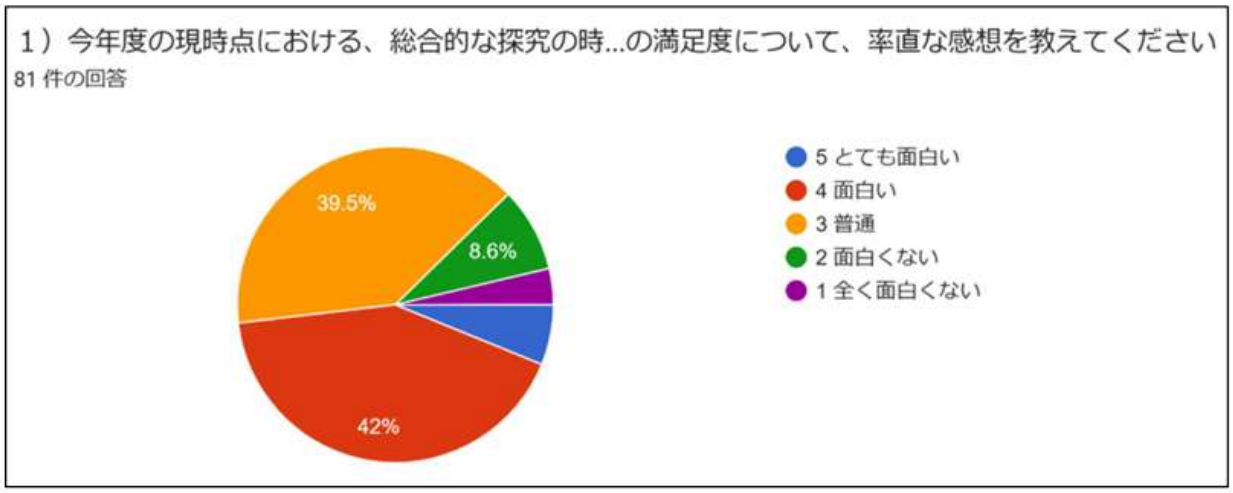
与論町海洋教育推進協議会

地域コーディネーター

田畑 香織

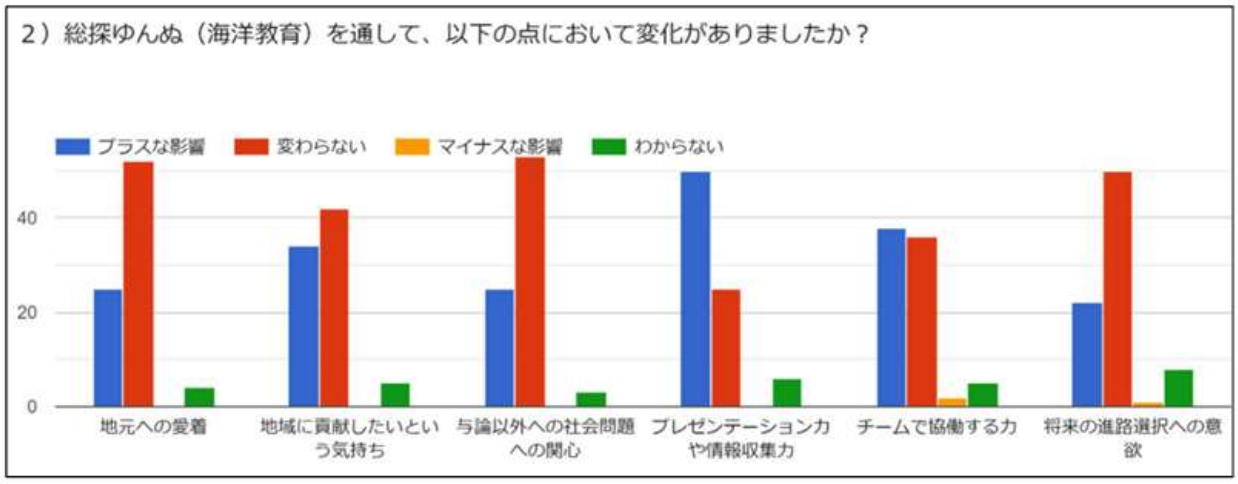
添付資料２

令和６年度　与論高等学校１，２年生　『ゆんぬ学』アンケート



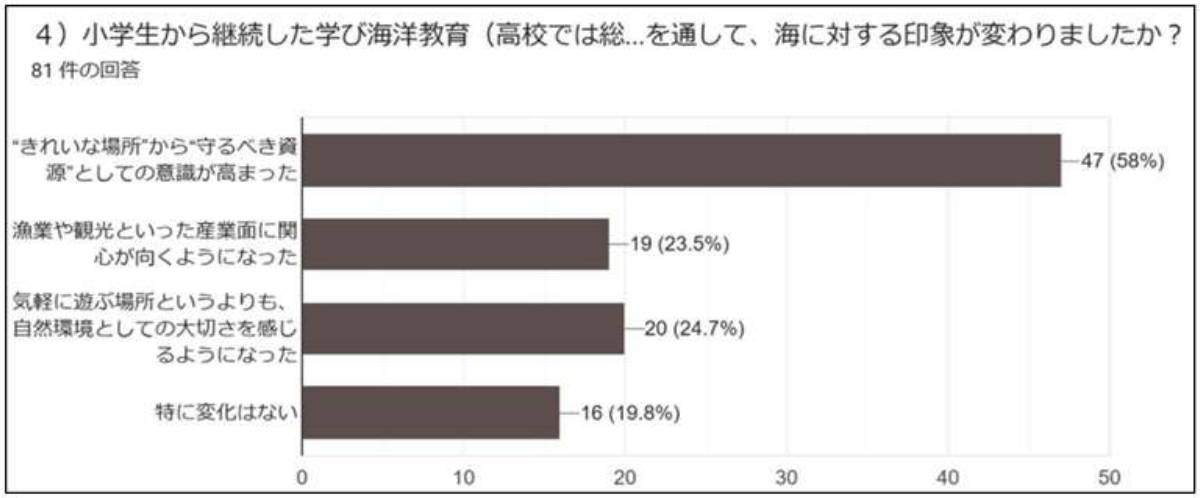
・自分が興味のある部分を探求できるところ
・自分の好きなことが与論の発展に繋がるということはなかなか難しい。私を含め興味があることを研究できている人は多くはないと思う。ただ、地域の人と協力して作っていく感じは面白いと思う。
・12 月の校内発表までに中間発表があり、そこで地域サポーターの方にアドバイスをもらえたのが良かったから。
・今まで意識していなかった部分に深刻な問題があったり、その問題を自分たちの手で明かしていく部分が面白い
・自分の好きな分野を探求できるところがとても面白い
・知らなかったことや新しく気づいたことなどが詳しく分かっていって面白い。
・探究テーマを決めるとどんどん新しい考えがうかぶところ。
・これといってとても面白い・面白くない点はないけど強いて言えば与論に関係のないことを調べられないからいやだ
・自分で考えることを自由に活動できる点
・グループで協力しながら一つのことに挑戦すること
・考えるのが苦手だったのでとても難しかった。
・これまでの先輩たちや大人たちの活動で、課題はあまり出てこないし自分でできることがない。すぐに行き詰まる。
・グループでごみ拾いをしたのは楽しかった
・知らなかったものをしれたり、今どんな状態なのか調べることができるから。
・今まで与論で生活をしてきて知らなかったことを沢山知ることができるから。
・何のためにしているのか分からない。
・興味があるものを調べているから楽しい。
・一つのテーマで、今の現状やこれから必要とされることなど多くの発見が見つかるから。
・自分の知りたい事をとことん探求できる時間だから。

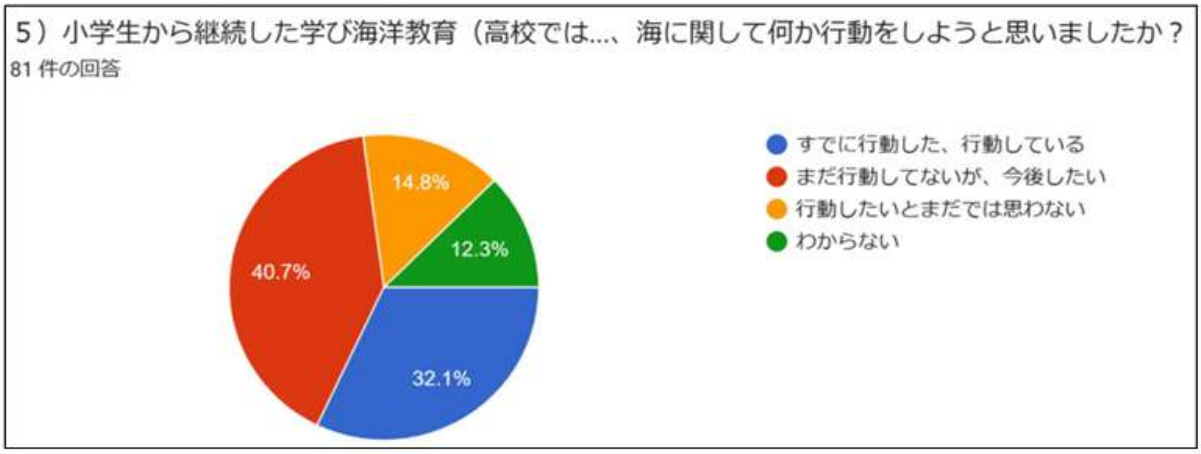
・面白いところは、自分で課題研究を進めてアンケートやインタビューをしていく中で知らなかった事実や問題点が見つかること。さらにその問題点をどのように解決するべきかを自分で考えて実際に行動に起こしていけること。面白くないところは、次に何をしたらいいのか行き詰まって研究が停滞してしまう時。
・まだわからないことをわかるような研究ができるから。
・自分の興味のあるテーマでできるのはいいが、難しくて特に面白いとは感じないから。
・与論の魅力を知ることができるのは面白いと思う
・自分の知りたいことをとことん追求できるから
・調査内容によって個人の負担が大きく変わる感じがある。
・時間に限りがあるので、やろうと思ってもできることが少ない。中途半端になり本当に意味があるのかわからない。
・調べるのが大変。
・仲間と協力して調査することができたらもっと違う意見も生まれたと思う。
・与論の抱えている課題や解決すべきことを明確に知ることができ、私達高校生ができることについてしっかり考えることができたから。
・相手のコメントで気づかされる点が多く楽しい。
・新しく知ることがあったから楽しい。
・毎年似たようなテーマや話が多く飽きがありつまらなくなってきた。



・情報収集能力やプレゼンテーション能力、地域の人との接し方など身について力は多いと思う。だが、研究内容を与論に還元することはできていないと思う。
・自らが動いて問題解決に向かおうとする意欲を持つことができた
・疑問に思うことが増えた。
・考えを膨らませる力。
・プレゼンの技術が上達した気がする。大勢の前での発表に以前よりも耐性がついたと思う。
・与論の抱えている問題について深く知ることができた
・発表するという力がついた

・たくさんの人が地域のために頑張っていることが分かって、尊敬した
・与論のためにできるアイデアが広がった
・自分の研究を発表するときに作ったプレゼンテーショで、プレゼンが見やすくなる工夫の仕方が分かった。
・コミュニケーション力の向上、昔に比べ人前での緊張が少なくなった
・研究発表で特に成長を感じた。大勢の人やある程度の人数の前で自分の研究をまとめて分かりやすく発表することでプレゼンテーション能力が向上したと感じる。
・人の前で発表する機会が増えたので、人前であまり緊張しなくなった。 プレゼン力が上がった。
・個人でやるのではなく、似たような意見や調査内容をしている人を探して協力するべきと感じた。
・自分の予定をたくさん埋めていくことで自分のできることが増えた気がする。要領が少し良くなった。研究自体が自分や誰かの役に立っているかはわからないけど、研究をするために協力をお願いしたり、答えのないことや前例のないことを考えるための力や思考の方法を学ぶことができた。この力は社会に出ても役に立つと思う。
・自分で計画してデータを収集し、結果を踏まえて考察することができた。
・計画性が身についた感じがした
・考察する力が伸びたと思う。
・研究に必要な資料集めのときに、本当にそれは正しいのかを調べるために似たようなサイトを何個か比較する用になった。プレゼン資料を作るときに、相手がぱっと見て分かりやすいスライドになっているのか客観的に見ることができた。年齢層に合わせて台本を作り、発表できるようになった。
・発表の場に慣れることができた。 探究心が強まった気がする。
・フィールドワークを通して、行動力がついたと思う。
・深く考えることが増えたが、考えすぎてたまに悪い影響を与えることもあった。
・今の与論の観光がどのような状態になっているのかをしっかりと理解し、自分の探求をこれからも深めていけるようにしたい
・あまり興味のないことにも取り組んでみようと思えるようになったこと
・様々な人との関わりができて楽しかったし、狭い島だからこそ嬉しかった。
・自分の学びたいことに主体的になれた。 助けてくれる人がいるので、やりたいことを実行しやすくなった。
・プレゼンを作るのがうまくなった
・文の構成をしっかり考えることができた
・地域の人や中学生の前で発表したので、その点は成長につながった。 中学生や高校一年生はレポート作りがあるので、影響を与えることができたと思う。
・探求で自分が問題だと思っていることを調べて、少しでも解決の方向に行けばいいなと思っています。
・自分のテーマに対して、調べたくなる気持ちが大きくなった。
・今後探求をするときは、もう少し内容を絞ってより深く、多くの人が興味をひく内容にしたい。
・災害時の行動について考えるきっかけになった。





・清掃活動への参加
・地域の清掃活動には毎回参加するようにしている。 海に寄ったら軽石は回収するようにしている。 普段人が立ち入らなそうに所のごみを回収するのを趣味にしている。
・この与論島故郷をよい未来にしていきたい
・拾い箱の開発プロジェクトみたいなのに入ってボランティアを行っている
・ビーチクリーン、サンゴチェック、サンゴの養殖
・サイエンスキャンプの結果を得て、グリーンベルトを与論に広めるための啓発活動。 海謝美への参加
・海のシンポジウムにボランティアとして参加、拾い箱の目的がわかった
・グリーンベルト普及への呼びかけ 海に釣りに行った際に海ごみを一箇所に集めるようにする
・具体的なデータや与論の詳しい現状とそれに対する具体策など、できるだけ具体的に詳しく、論理的なアプローチをしていきたい。
・海謝美への参加、赤土流出の防止について調べて実践すること。対策を進めること。
・大量消費を避け、使えるものは最大限有効的に使うようにする。
・観光についてもっと詳しく調べ、今考えているものにどのような改善点があり、工夫するべきなのかをまとめ、改善していけるようにしたい
・時間があるときに海に遊びに行って砂浜にある漂着ゴミの回収をしている プラスチックや燃えるゴミなどしっかり分別をし、できれば繰り返し使えるものを使っていきたいと思う